Carryfit

操作マニュアル

ver.2.0

株式会社サンワコン

Copyright (C) 2010 Sanwacon Co., Ltd.

目次

Carryfit2.0 の概要

・Carryfit の目的 ---------- 1
・主な機能 ---------- 1
・地図モードと写真モード ---------- 2
・画面構成 ---------- 3
・Carryfit2.0 のファイル ---------- 3
・作業内容と機能の関係 ---------- 4
・その他の機能 ---------- 8

1．プロジェクトの新規作成

1.1 Carryfit プロジェクト新規作成（地図モード） ---------- 9
1.2 Carryfit プロジェクト新規作成（写真モード） ---------- 10

2．プロジェクトファイルの制御、管理

2.1 ファイルの排他制御 ---------- 11
2.2 自動バックアップ ---------- 12
2.3 複製に別名を付けて保存 ---------- 13
2.4 圧縮ファイル形式で保存 ---------- 14
2.5 プロジェクトの上書き保存 ---------- 15
2.6 別の Carryfit プロジェクトの読み込み（結合）（地図モードのみ） ---------- 16

3．設定（主に初期設定、必要に応じて変更）

3.1 選択範囲の線色 ---------- 17
3.2 現在地の色 ---------- 18
3.3 図形の線色リスト ---------- 19
3.4 図形の塗潰し色のリスト ---------- 20
3.5 テキスト色のリスト ---------- 21
3.6 シンボル色のリスト ---------- 22
3.7 シンボル種類のリスト ---------- 23
3.8 GPS 通信（地図モードのみ） ---------- 24
3.9 写真の取り込み場所（フォルダ） ---------- 25
3.10 写真取り込み済みリストの管理 ---------- 26
3.11 テンプレートファイルの追加、削除 ---------- 27
3.12 画像出力に関する設定 ---------- 28

3.13 設定ファイルのインポート／エクスポート -- 29

4. 地図（下図）の読み込み（地図モードのみ）

4.1 ラスター地図の読み込み -- 30

4.2 ベクトル地図の読み込み -- 31

4.3 ラスター地図を幾何補正して読み込み -- 32

5. 表示

5.1 拡大／縮小 -- 33

5.2 移動（パンニング） --- 34

5.3 地図座標表示 -- 35

5.4 選択図形のスタイル表示 -- 36

5.5 軌跡表示 -- 37

5.6 図形名称文字の色／サイズ変更 --- 38

5.7 レイヤー表示の切替 -- 39

5.8 背景画像（地図・写真）の写真名／撮影日時表示の切替 ------------------------------ 40

5.9 写真のサムネイル／一覧表示を切替 --- 41

6. GPS（地図モードのみ）

6.1 GPS 通信開始・終了 -- 42

6.2 GPS 座標表示 --- 43

6.3 現在地表示 --- 44

6.4 現在地作図 --- 45

6.5 写真撮影時刻の軌跡位置に自動的に写真を関連付け（リアルタイム） ------------------ 46

6.6 写真撮影時刻の軌跡位置に自動的に写真を関連付け（後から） ------------------------ 47

6.7 GPS のログデータ（nmea データ）から軌跡描画および写真関連付け ----------------- 48

6.8 位置情報を持つ写真の読み込みと図形描画および写真関連付け ----------------------- 49

6.9 GPS ログの管理 --- 50

7. レイヤーの追加や設定（属性の設定を含む）

7.1 レイヤーの追加（図形レイヤー） -- 51

7.2 レイヤーのプロパティ（図形レイヤー） --- 52

7.3 レイヤーの名前変更（地図レイヤー、図形レイヤー、軌跡レイヤー） ------------------ 53

7.4 レイヤーの複製（図形レイヤー） -- 54

7.5 レイヤーの削除（地図レイヤー、図形レイヤー） ------------------------------------ 55

8. 作図

8.1 図形を描画するレイヤーの選択 --- 56

8.2 円を描く -- 57

8.3 矩形を描く -- 58
8.4 多角形を描く -- 59
8.5 矢印を描く -- 60
8.6 折線を描く -- 61
8.7 自由線を描く -- 62
8.8 シンボルを描く -- 63
8.9 テキストを書く -- 64

9. 属性値の入力
9.1 図形にユーザー名称を入力 -- 65
9.2 図形の属性項目に値を入力 -- 66

10. 図形の編集
10.1 図形の選択 --- 67
10.2 図形の単一選択 --- 68
10.3 図形の複製 --- 69
10.4 図形の削除 --- 70
10.5 図形の移動 --- 71
10.6 図形の拡大・縮小 --- 72
10.7 図形の頂点移動 --- 73
10.8 図形の線スタイル変更 --- 74
10.9 図形の塗潰しスタイル変更 --- 75
10.10 図形のテキストスタイル変更 --- 76
10.11 図形のシンボルスタイル変更 --- 77
10.12 テキストの編集 -- 78
10.13 図形に関連付けた写真にユーザー名称 ------------------------------------- 79
10.14 図形に関連付けたファイルにユーザー名称 --------------------------------- 80

11. 図形に写真やファイルを関連付け
11.1 図形に写真を関連付け（主にカメラから） ----------------------------------- 81
11.2 図形に写真を関連付け（フォルダからドラッグ＆ドロップで） --------------- 82
11.3 表示領域をキャプチャして、写真として関連付け ----------------------------- 83
11.4 図形にテンプレートファイルを関連付け ------------------------------------- 84
11.5 図形に任意のファイルを関連付け（フォルダからドラッグ＆ドロップで） ----- 85
11.6 図形に音声を関連付け --- 86
11.7 関連付けた写真を開く --- 87

12. キャンバスにファイルを関連付け

12.1 キャンバスにテンプレートファイルを関連付け ---------------------------------- 88
12.2 キャンバスに任意のファイルを関連付け（フォルダからドラッグ＆ドロップ） ------- 89
12.3 キャンバスに音声を関連付け -- 90

13.出力

13.1 Excel に写真を自動貼り付け -- 91
13.2 表示画像をファイル出力 -- 93
13.3 Shape 形式で地図を出力 --- 94
13.4 DXF 形式で地図を出力 -- 95
13.5 表示範囲をキャプチャしてクリップボードにコピー ---------------------------- 96
13.6 写真をドラッグ＆ドロップで出力 -- 97
13.7 Carryfit プロジェクトを一括書き出し -- 98

14.ツール

14.1 写真一覧 -- 99
14.2 位置確認（地図モードのみ） --- 100
14.3 距離計測（地図モードのみ） --- 101
14.4 図形の検索 -- 102
14.5 関連エクスプローラ -- 103
14.6 図形の属性情報を CSV で書き出し --- 104

よくある質問

地図関連

Carryfit2.0 で取り扱える地図画像のサイズ（ピクセル数）は --------------------- 105
日本測地系を世界測地系に変換する方法 -- 106
『緯度/経度』を平面直角座標系に変換する方法 -------------------------------- 107
地図の座標が分からないが Carryfit2.0 が利用したい ----------------------------- 108

操作関連

図形が削除出来ない -- 109
関連エクスプローラの使い方 --- 110
オートシェイプに書き出された画像が一部しか表示されない ------------------------ 116
オートシェイプに書き出された画像が伸縮する（縦横比が崩れる） ----------------- 117
自動貼り付けを利用するための Excel 帳票の作り方 ------------------------------- 118
「写真、ファイルにユーザー名をつける」機能の使い方 ------------------------- 119

カメラ関連

写真がカメラから転送されてこない１ -- 120

写真がカメラから転送されてこない２ -- 121

Bluetooth 関連

Bluetooth による写真転送の仕組み -- 122

受信完了のメッセージが表示される -- 122

Bluetooth 対応のヘッドセットの使い方 -- 123

Bluetooth ヘッドセットから音声の録音が出来ない -------------------------------- 125

Bluetooth の設定プロファイルを変更する -- 127

プレゼンテーション関連

プレゼンターの説明に合わせて、写真を拡大表示したい ---------------------------- 128

Carryfit2.0 の概要

・Carryfit の目的

Carryfit はフィールド調査を支援するソフトウエアです。タブレットパソコンにも対応しており、フィールド調査が便利に行えます。

・主な機能

～地図上での作業～

・地図を表示します。拡大縮小など自在にできます。
・GPS と連動することで地図上に現在地や軌跡を表示します。
・地図上に「矩形」や「円」、「多角形」、「矢印」、「自由線」、「シンボル」を簡単に描画できます。

～描画した図形にさまざまな情報を～

・地図上に描画した図形に任意の情報（属性値）を持たせることができます。名前や大きさ、種類、状態などユーザーが任意に属性項目を設定できます。
・描画した図形には「写真」やさまざまなデータファイルを関連づけることができます。
・「写真の関連付け」は現地作業での利便性を考慮した仕様になっているので、現地調査しながらその場で撮影した写真を簡単に図形に関連付けることができます。

～写真上での作業～

・描画した図形に関連付けた「写真画像」の上にも「矩形」や「円」、「多角形」、「矢印」、「自由線」、「シンボル」を簡単に描画できます。
・写真上に描画した図形に対しても情報（属性値）を持たせたり、写真やさまざまなデータを関連づけることができます。

～情報の検索～

・図形検索：図形が持つ属性値などを利用してキーワード検索ができます。
・写真一覧：図形に関連付けた写真を一覧表示できます。写真画像からそれが関連付けられている図形（地点）を検索することができます。

～アウトプット～

・Carryfit2.0 で収集した情報はさまざまな形でアウトプットできます。
・csv：図形が持つ情報（属性値や色、線種、描画日時など）を csv ファイルに書き出します。調査結果一覧表などの作成に利用できます。

・shape：図形と属性を shape 形式で書き出します。GIS ソフトを使った二次加工に利用できます。

・DXF：図形を DXF 形式で書き出します。CAD ソフトを使った二次加工に利用できます。

・クリップボード：表示中の画像をクリップボードにコピーできます。エクセルやワードなど他のソフトに図を貼り付けることができます。

・ドラッグ＆ドロップ：図形に関連付けた写真のサムネイルをドラッグ＆ドロップしてワードなどに貼り付けることができます。

・エクセルへの自動貼り付け：表示画像や、図形に関連付けた写真をエクセルで作成したテンプレートファイルに自動で貼り付けることができます。

・写真データの一括書き出し：写真に名前を付けて、指定したフォルダに写真ファイルをコピーします（関連エクスプローラを利用します）。exif 情報などは変更せずにファイル名のみを変えるだけなので電子納品などでエラーがかかることはありません。

～その他～

・複数班で作業したデータを結合することができます（同じ座標系で作業していることが条件です）。

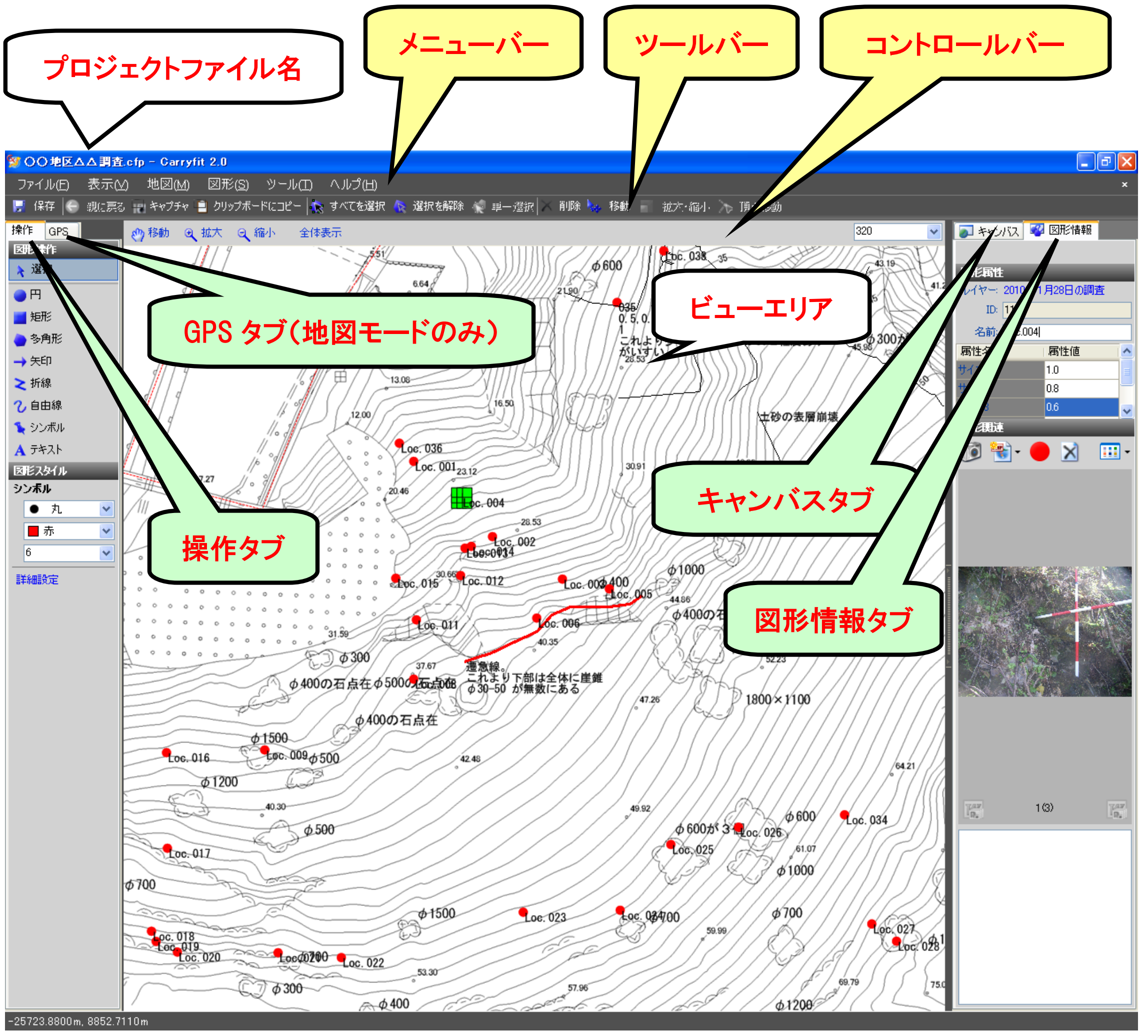
・地図モードと写真モード

Carryfit2.0 には地図モードと写真モードがあります。地図をベースにした調査と、設計図面や構造物の展開図、写真画像をベースにした調査で使い分けます。以下の違いがあるだけで、ユーザーはモードの違いをあまり意識することなく利用できます。

表　地図モードと写真モードの主な違い

機能	地図モード	写真モード
GPS（現在地、軌跡）	○	×
複数の地図（下図）レイヤー	○	×
距離計測	○	×
データの結合	○	×

・画面構成



・Carryfit2.0 のファイル

・プロジェクトファイルの拡張子は(.cfp)です。

・旧バージョンのデータ(.cmap),(.cfit)を読み込むことができます（読み込みの際に、cfp 形式に変換し、元のデータは OLD フォルダを自動的に作成してその中に残します）。

・バックアップファイルとして(.cfp.backup)が作成されます。ファイルを起動してから 10 分毎に更新されます。

・圧縮ファイルとして保存する場合は（.cfz）が作成されます。1 ファイルのデータとしてやり取りする際などに利用します。

・作業内容と機能の関係

【ハードの初期設定】

Carryfit のインストール

・インストールマニュアルを参照してください

↓

周辺機器（GPS・デジカメ）の設定

・原則的に各ハードの取説を参照してください
次の機器は設定マニュアルを準備してあります
Caplio500SE(RICOH)・LD-3W(NOKIA)・HI-408BT(HAICOM)

⇒【設定】：GPS 通信
⇒【設定】：取り込み（写真取り込みフォルダ設定）

実使用へ

【フィールド準備】

地図を Carryfit2.0 に登録

⇒【cfp プロジェクト】：新規作成
⇒【地図】 （3 タイプの地図読み込み方法）
⇒【ツール】：位置確認

↓

フィールド作業の準備
（調査方法の決定とそれに応じた準備）

⇒【設定】：設定ファイルのインポートエクスポート
⇒【設定】：GPS 軌跡表示色
⇒【設定】：線色
⇒【設定】：塗りつぶし色
⇒【設定】：テキスト色
⇒【設定】：シンボル色
⇒【設定】：シンボル
⇒レイヤー（属性）の追加

↓

エクセルで作成したテンプレートを使う
場合の準備

⇒【設定」：テンプレート

フィールドへ

【フィールド作業】

Carryfitを起動してGPSで位置と軌跡を表示

⇒【GPS】:GPS通信開始・終了
⇒【表示】:軌跡表示

↓

地図が見やすいように表示

⇒【表示】:拡大／縮小
⇒【表示】:移動（パンニング）

↓

地図に情報を書き込む

⇒【作図】:円
⇒【作図】:矩形
⇒【作図】:多角形
⇒【作図】:矢印
⇒【作図】:折線
⇒【作図】:自由線
⇒【作図】:シンボル
⇒【作図】:テキスト
⇒【編集】:図形にユーザー名称

↓

作図した情報の修正・編集
（細かい修正などは室内に戻って
デスクトップで作業するのがよい）

⇒【編集】:選択
⇒【編集】:単一選択
⇒【編集】:図形の削除
⇒【編集】:図形の移動
⇒【編集】:図形の拡大縮小
⇒【編集】:図形の頂点移動
⇒【編集】:図形の線スタイル変更
⇒【編集】:図形の塗りつぶしスタイル変更

↓

写真を撮影して地図上に描いた図形に関連づける

⇒図形に写真を関連付け（主にカメラから）
⇒図形に写真を関連付け（フォルダからドラッグ＆ドロップ）

or

表示画面をキャプチャ（コピー）して地図上に描いた図形に関連付ける

⇒表示画面をキャプチャして写真として関連付け

or

図形にテンプレートファイルや任意のファイルを関連付ける

⇒図形にテンプレートファイルを関連付け
⇒図形に任意のファイルを関連付け（フォルダからドラッグ＆ドロップで）
⇒図形に音声を関連付け

↓

【フィールド作業　つづき】

図形に関連付けた画像（写真やキャプチャした地図）をベースに情報を書き込む

⇒子写真を開く
⇒【作図】：円
⇒【作図】：矩形
⇒【作図】：多角形
⇒【作図】：矢印
⇒【作図】：折線
⇒【作図】：自由線
⇒【作図】：シンボル
⇒【作図】：テキスト

写真を撮影して写真上に描いた図形に関連づける

⇒図形に写真を関連付け（主にカメラから）
⇒図形に写真を関連付け（フォルダからドラッグ＆ドロップ）

写真上に描画した図形にテンプレートファイルや任意のファイルを関連付ける

⇒図形にテンプレートファイルを関連付け
⇒図形に任意のファイルを関連付け（フォルダからドラッグ＆ドロップで）
⇒図形に音声を関連付け

室内作業へ

フィールド用パソコンからデータをフォルダごと一式コピーしてデスクトップパソコンで利用する。
ここでは、室内作業向けと考えられる機能を中心に示します。

【室内作業】

作図した図形などの修正・編集

⇒【編集】：図形のプロパティ
⇒【編集】：図形の複製
⇒【編集】：図形の削除
⇒【表示】：文字の色／サイズ変更
⇒【表示】：背景画像（地図・写真）表示の切替
⇒【表示】：背景画像（地図・写真）タイトル表示の切替
⇒【表示】：背景画像（地図・写真）撮影日時表示の切替
⇒【表示】：図形表示の切替
⇒【表示】：関連情報を持つ図形の表示の切替
⇒【表示】：関連情報を持たない図形表示の切替
⇒【表示】：図形名称表示の切替

図形にユーザー名を入力する。
（写真位置図作成に応用できる）

⇒【編集】：図形にユーザー名称
⇒【ツール】：関連エクスプローラ

【室内作業 つづき】

↓

図形を検索する

⇒【ツール】:図形検索
⇒【ツール】:写真一覧
⇒複数の図形を選択して【単一選択】

↓

関連付けた写真ファイルまたは任意ファイルを指定したフォルダに書き出す

⇒【ツール】:関連エクスプローラ

↓

表示している画像や関連付けた写真ファイルをエクセルやワードなどに貼り付けてレポートなどを作成する

⇒【クリップボードにコピー】
⇒【出力】:ドラッグ＆ドロップで写真を出力

↓

テンプレートファイルに表示画像や写真を自動的に貼り付ける

⇒【出力】:Excel に写真を自動貼り付け（関連ファイル）

↓

エクセルファイル（テンプレート登録してないもの）に表示画像や写真を自動的に貼り付ける

⇒【出力】:Excel に写真を自動貼り付け（ファイル指定）

↓

GIS や CAD にデータを渡す

⇒【出力】:ESRI Shape 形式で地図を出力
⇒【出力】:DXF 形式で地図を出力

・その他の機能

ケース		関係する主な機能
主に現地作業	地図上の距離を計測したい時	⇒【地図】：距離計測
	GPS が示す位置にシンボルを作図したい時（位置精度が要求されないような調査の場合，作業効率を高める）	⇒【GPS】：現在地作図
	地図を使わず，現地の全景写真を撮影するなどして，全景写真をベースに調査を行う時	⇒写真モードで新規プロジェクト作成
現地と室内共通	バッテリー切れなど，予期せぬタイミングで Carryfit が閉じてしまって，作業中のファイルが消えてしまった時に，できる限りファイルを復元したい時	⇒【ファイル】：自動バックアップ
主に室内	ある段階までの状態でファイルを保存しておきたい時	⇒【ファイル】：複製を名前を付けて保存
	プロジェクをメール転送する場合など，プロジェクトファイルを一つのファイルにまとめたい時	⇒【ファイル】：圧縮ファイル形式で保存
	関連付けた写真またはファイルに名前を付けて，何のファイルかを分かるようにしたい時	⇒写真にユーザー名称 ⇒ファイルにユーザー名称
プレゼン	地図を見ながら関連付けた写真をお客様に見せたい時	⇒関連付けた写真のプレビュー表示。 ⇒ビューエリアの右端境界の位置を調整して写真を大きくする

1.プロジェクトの新規作成

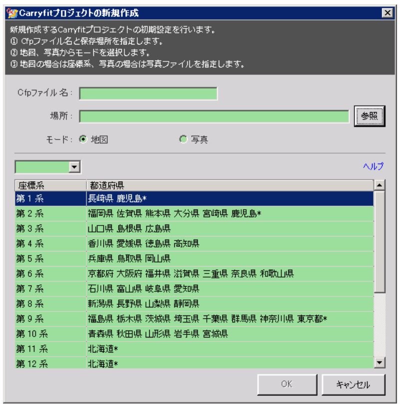
1.1　Carryfit プロジェクト新規作成（地図モード）

「概要」

プロジェクトで使用する座標系を指定して Carryfit プロジェクトを新規作成します。
（この段階では下図に使う地図などは指定しません）

「操作」

1. 「ファイル」「Carryfit プロジェクトの新規作成」を選択して、「Carryfit プロジェクトの新規作成」画面を表示します。
2. モード選択で「地図」を選択します。
3. 保存する cfp ファイル名を入力します。
4. 作成する Carryfit プロジェクトのファイル名と保存先フォルダを指定します。
5. 座標系を選択します。
6. OK ボタンを押すと Carryfit プロジェクトが作成されます。
7. 画面右側の「キャンバス」タブ内の上部にある「プロパティ」をクリックします。
8. キャンバスのプロパティが表示されるので、縮尺を設定してください。初期値は 1/10,000 です。
（縮尺の設定はキャンバス上に描画した図形の線幅や文字の大きさを適切にするために必要です）



*地図画像及び取り扱う座標に関しての詳しい情報は、「よくある質問」を参照してください。

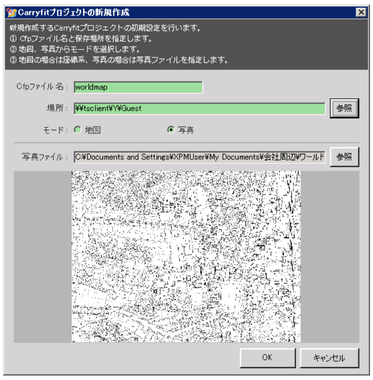
1.2 Carryfit プロジェクト新規作成（写真モード）

「概要」

地図以外の画像（座標を持たせる必要がない画像など）を下図として指定して、Carryfit プロジェクトを新規作成します。（写真モードでは GPS と距離計測の利用は出来ません）

「操作」

1. 「ファイル」「Carryfit プロジェクトの新規作成」を選択して、「Carryfit プロジェクトの新規作成」画面を表示します。
2. モード選択で「写真」を選択します。
3. 写真ファイルの「参照」ボタンをクリックして、作業の下図にする地図イメージ画像を指定します。
4. 作成する Carryfit プロジェクトのファイル名と保存先フォルダを指定します。
5. OK ボタンを押すと Carryfit プロジェクトが作成されます。



2.プロジェクトファイルの制御、管理

2.1 ファイルの排他制御

「概要」

使用中のプロジェクトファイル(cfp ファイル)を占有化して、他から使用できなくします。

「説明」

使用しているプロジェクトは、自動的に排他制御されます。同一プロジェクトを他のパソコンなどから使用できなくなるようにすることで、プロジェクトの一貫性を保ちます。ただし、Viewer の場合は読み取り専用で開いている為、ファイルを開くことができます。

2.2 自動バックアップ

「概要」

ファイルを開いて作業開始してから **10 分ごとにバックアップファイルを作成します。**作業中に突然電源が落ちたり、予期せぬエラーで強制終了してしまった場合などに，最終バックアップした時の状態まで作業ファイルを復元することができます。

「説明」

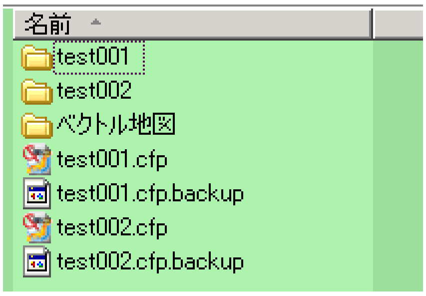
ユーザーによる操作は必要ありません。

「補足（バックアップファイルを使ってデータを復元する方法）」

1. Carryfit プロジェクトまたは Carryfit プロジェクトファイルがあるフォルダを開く。
2.復元したいプロジェクトのファイル（○○.cfp）を選択する。
3.ファイル名を次のように変更する。

変更前	⇒	変更後
「○○.cfp」	⇒	「○○.cfp.old」

4.復元したいプロジェクトのファイル名の後に「.backup」の拡張子がついているファイルを選択する。
5.次に示すように拡張子「 .backup」を削除する。
「○○.cfp.backup」⇒「○○.cfp」



＊正常に保存できずに終了した場合に，状況確認のために当該プロジェクトファイルを開いて 10 分経過すると再び自動バックアップ機能が働き，その時の状態でバックアップファイルが上書きされてしまいますのでご注意ください。

2.3 複製に別名を付けて保存

「概要」

現在開いているプロジェクトの全てのフォルダとファイルの複製を作成します。

「操作」

1. 「ファイル」「複製を別名で保存」をクリックします。
2. プロジェクト名を入力します。（最初の状態では、現在開いているプロジェクト名が入力されています。）
3. 保存するフォルダを指定します。

*現在開いているプロジェクトが保存されているフォルダには、保存できません。

4. 「保存」ボタンをクリックします。

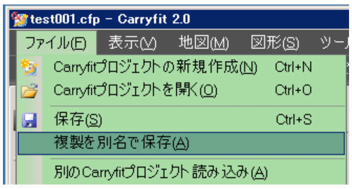
2.4 圧縮ファイル形式で保存

「概要」

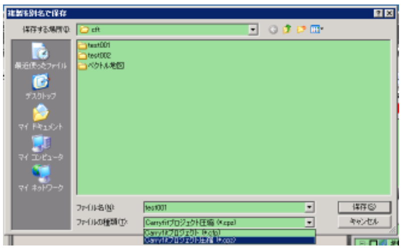
Carryfit プロジェクトまたは Carryfit プロジェクトを圧縮ファイル形式で保存します。メールやデータ転送サイトを使ってデータを送る場合などに使います。

「説明」

～保存する時～



1. 「ファイル」「複製を別名で保存」を選択します。
2. 保存ファイル名の入力画面になるので，ファイルの種類を圧縮ファイル形式[.cpz]にします。
3. 必要に応じてファイル名，フォルダなどを変更して「保存」ボタンをクリックします。
4. 圧縮ファイルとして保存されます。



～開く時～

1. 圧縮形式ファイル（cfz）をダブルクリックします。

*「メニューバー」「ファイル」の「Carryfit プロジェクトを開く」からも開けます。

2. 解凍先フォルダを聞いてきます。
3. 解凍先フォルダを指定して「OK」ボタンをクリックします。
4. 指定した解凍先フォルダに当該圧縮ファイル名と同じ名前のフォルダが自動的に作成され，そのフォルダ内にプロジェクトファイルが保存され，同時にプロジェクトが立ち上がります。

2.5 プロジェクトの上書き保存

「概要」

Carryfit プロジェクトを上書き保存します。プロジェクトを編集した時に使います。

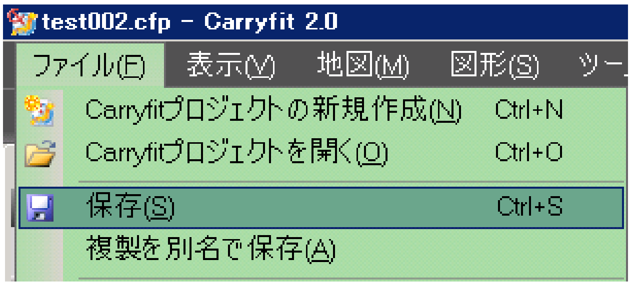
「説明」

～現在開いているプロジェクトを保存する時～

「ファイル」「保存」を選択します。

ファイルメニュー下の保存アイコンをクリックすることによっても上書き保存できます。

＊本ソフトウェアには自動バックアップ機能が搭載されていますが、安全のために作業データのこまめな上書き保存をおすすめします。



2.6 別の Carryfit プロジェクトの読み込み（結合）（地図モードのみ）

「概要」

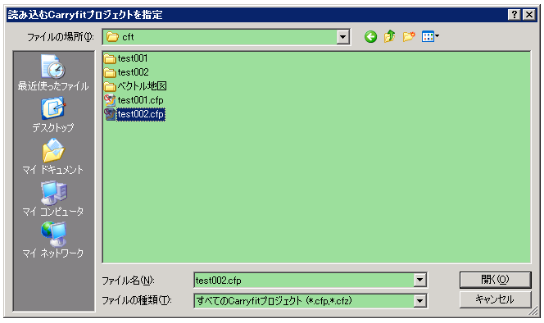
現在開いているプロジェクトに別の Carryfit プロジェクトを結合します。（同一の下図に対して複数班で調査する場合を想定しているため地図は結合されません。別の地図で作業した場合は、当該地図を「地図」メニューから読み込んで利用することができます。）

「説明」

～現在のプロジェクトにレイヤー情報や属性値を含むプロジェクトを結合する～

1. 「ファイル」「別の Carryfit プロジェクト読み込み」を選択します。
2. 新しく読み込む Carryfit プロジェクトを選択します。
3. 「開く」ボタンをクリックします。

*旧バージョンのデータ（cmap ファイルや cfit ファイル）は結合できません。



3.設定（主に初期設定、必要に応じて変更）

3.1 選択範囲の線色

「概要」

範囲選択での図形選択のときに表示される選択枠の色を設定します。

「操作」

1. 「ツール」「オプション」の「表示」で選択色の変更をします。
2. 下図のように■をクリックして、カラーパレットから選択枠の色を設定します。

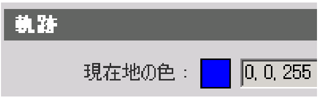
3.2 現在地の色

「概要」

Carryfit に表示される現在地の色を変更できます。

「操作」

1. メニューバーの「ツール」「オプション」「表示」で変更します。
2. 下図のように■をクリックして、カラーパレットから「現在位置の色」を設定します。



3.3 図形の線色リスト

「概要」

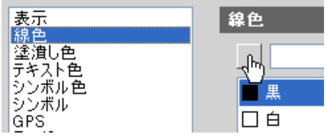
使用する線色に任意の色を追加登録できます。

また、よく使用する線色を選び易いように表示順を変更する事もできます。

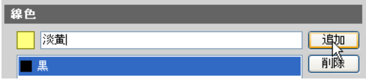
なお、一旦登録された色を変更する事はできません(■⇒■)。 ■を削除後■を追加してください

「操作」

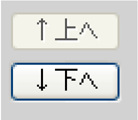
1. メニューバーの「ツール」「オプション」「線色」を選択します。
2. 「□」ボタンを押すと表示されるカラーパレットを使って追加する色（黄）を指定します。



3. 「■」ボタンの色が追加色に変更されます。



4. テキストボックスに「色の名前」を入力して「追加」ボタンを押します。
5. 「↑上へ」「↓下へ」ボタンを押すことで、表示順を変更する事ができます。



3.4 図形の塗潰し色のリスト

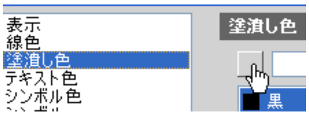
「概要」

円・矩形・多角形・テキストの塗潰し色に任意の色を追加登録できます。

また、よく使用する塗潰し色を選び易いように表示順を変更する事もできます。

「操作」

1. メニューバーの「ツール」「オプション」「塗潰し色」を選択します。
2. 「□」ボタンを押すと表示されるカラーパレットを使って追加する色（黄）を指定します。



3. 「■」ボタンの色が追加色に変更されます。

4. テキストボックスに「色の名前」を入力して「追加」ボタンを押します。
5. 「↑上へ」「↓下へ」ボタンを押すことで、表示順を変更する事ができます。

3.5 テキスト色のリスト

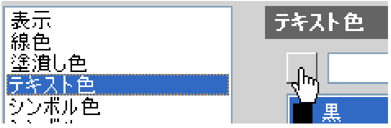
「概要」

テキスト色に任意の色を追加登録できます。

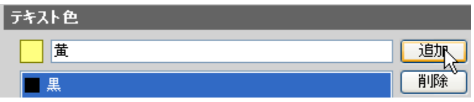
また、よく使用するテキスト色を選び易いように表示順を変更する事もできます。

「操作」

1. メニューバーの「ツール」「オプション」「テキスト色」を選択します。
2. 「□」ボタンを押すと表示されるカラーパレットを使って追加する色（黄）を指定します。



3. 「■」ボタンの色が追加色に変更されます。



4. テキストボックスに「テキスト色の名前」を入力して「追加」ボタンを押します。
5. 「↑上へ」「↓下へ」ボタンを押すことで、表示順を変更する事ができます。

3.6 シンボル色のリスト

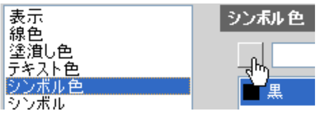
「概要」

シンボル色に任意の色を追加登録できます。

また、よく使用するシンボル色を選び易いように表示順を変更する事もできます。

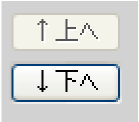
「操作」

1. メニューバーの「ツール」「オプション」「シンボル色」を選択します。
2. 「□」ボタンを押すと表示されるカラーパレットを使って追加する色（黄）を指定します。



3. 「■」ボタンの色が追加色に変更されます。

4. テキストボックスに「シンボル色の名前」を入力して「追加」ボタンを押します。
5. 「↑上へ」「↓下へ」ボタンを押すことで、表示順を変更する事ができます。



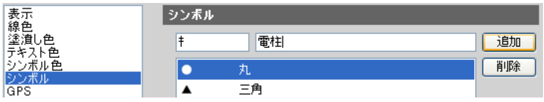
3.7 シンボル種類のリスト

「概要」

シンボルに MS IME 等で入力出来る文字や記号を追加登録できます。プルダウンメニューで表示されるシンボルの順番を変更する事もできます。

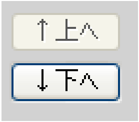
「操作」

1. メニューバーの「ツール」「オプション」「シンボル」を選択します。
2. 左側のテキストボックスに登録する文字または記号を入力します。



3. 右側のテキストボックスに「シンボルの名前」を入力して「追加」ボタンを押します。

4. 「↑上へ」「↓下へ」ボタンを押すことで、表示順を変更する事ができます。



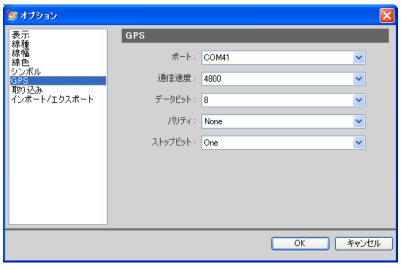
3.8 GPS 通信（地図モードのみ）

「概要」

GPS からリアルタイムで位置座標を受取るため、GPS レシーバとパソコン間の通信方法を指定します。

「操作」

1. メニューバーの「ツール」「オプション」「GPS」で[COM ポート][通信速度][データビット][パリティー][ストップビット]を指定します。
2. [COM ポート]は BT Port として割当られたポートを、[通信速度]は 4800、[データビット]は 8、[パリティー]は None、[ストップビット]は One を指定します。

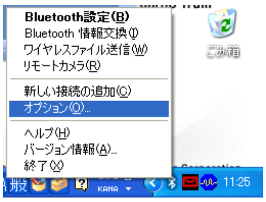


＜BT ポートの確認方法＞

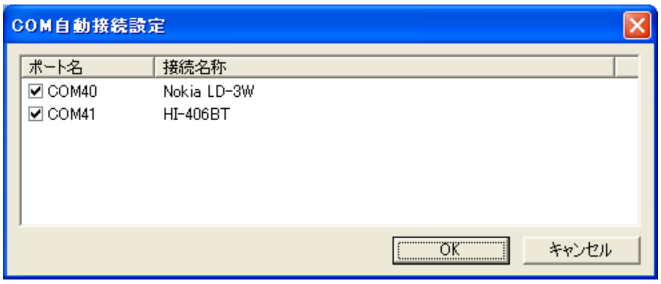
Bluetooth のドライバーとしてよく使用されている Bluetooth Stack for Windows by Toshiba を例に説明しております。

他社製ドライバーの場合は、それらのメーカーのマニュアルを参照してください。

1. タスクバーの Bluetooth アイコンを右クリックして表示されるサブメニューから「オプション」を選択します。



2. オプションウィンドウの「その他」タブの「COM 自動接続の設定」にある「設定」ボタンを押すことで GPS レシーバが使用する COM ポート番号が確認できます。



3.9 写真の取り込み場所（フォルダ）

「概要」

写真の取り込みにおける、取り込み元のフォルダを設定します。

「説明」

写真の取り込みでの、取り込み元のフォルダの設定ができます。

「操作」

1. メニューバーの「ツール」「オプション」「写真取り込み場所」を選択します。
2. 「追加」をクリックして、写真の取り込みをする取り込み元フォルダを設定します。不要なディレクトリ項目を選択し「削除」をクリックすると削除することができます。

*指定されたフォルダが存在しない場合はディレクトリ名の横に×が入ります。

3.10 写真取り込み済みリストの管理

「概要」

写真の取り込みにおける、取り込み済みの写真を管理します。

「説明」

一度取り込んだことにより「取り込み候補として表示されなくなった写真」を取り込み済みリストから削除して再度取り込み候補写真として表示されるようにします。

「操作」

1. メニューバーの「ツール」「オプション」「写真取り込み済み」を選択します。
2. 取り込み済みのリストから削除して再度取り込み候補として表示したい写真を選択して「取り込み済みリストから削除」をクリックします。
3. 「全て選択」をクリックするとリスト内の写真を全て選択できます。

*Carryfit は一度取り込んだ写真を「取り込み候補」として表示しないようにしています。取り込み済みの写真としてリストしているのが取り込み済みリストです。

*取り込み済みリストが多くなると、写真取り込みの動作が重くなります。取り込み済みフォルダから不要な写真の削除するのはもちろん、こまめに取り込み済みリストをクリアーすることを推奨します。

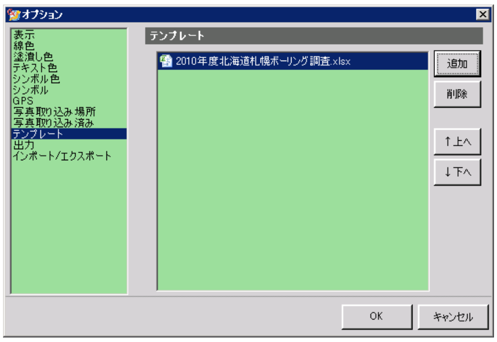
3.11 テンプレートファイルの追加、削除

「概要」

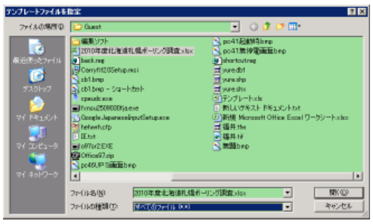
別のソフトで作成したファイルをテンプレートとして登録します。

「操作」

1. 他のソフト（word や excel など）でテンプレートを作成する。



2. メニューバーの「ツール」「オプション」、「テンプレート」を選択する。
3. 「追加」ボタンをクリックする。
4. 登録したいファイルを選択する。
5. 「開く」ボタンをクリックする。
6. 「OK」ボタンをクリックする。



7. 不要なテンプレートを選択し、「削除」ボタンをクリックすると削除されます。

3.12 画像出力に関する設定

「概要」

Excel へ写真を自動的に貼り付ける際の写真画像、関連エクスプローラで書き出す写真画像の設定を行います。写真上に描画した図形を表示するかしないかを設定します。

「説明」

＜関連エクスプローラ＞

関連エクスプローラからオリジナル（描画した図形を表示しない状態）の地図や写真を書き出す時に「オリジナル」を選択します。

関連エクスプローラで写真上に描画した図形を表示した写真データを書き出す場合は「図形付き画像」を選択します。

「図形付き画像」を選択した場合には、ファイル形式（JPEG,PNG）を選択します。

「図形付き画像」を選択時には角度（JPEG,PNG は 90°単位）をつけて書き出す事が出来ます。それ以外の角度を指定した場合、90°単位に置き換えられます。

＜Office 貼り付け＞

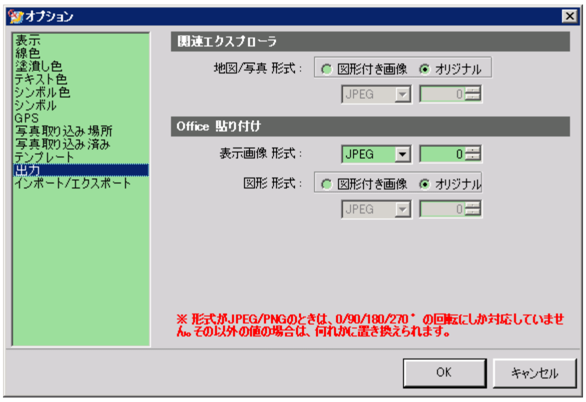
表示画像　形式：Excel に作られたオートシェイプ（cfit 表示画像）に書き出すファイル形式（JPEG,PNG）を指定します。

図　　形　形式：Excel に作られたオートシェイプ（cfit シンボル○○,cfit テキスト□□）に書き出す画像の種類、「図形付き画像」か「オリジナル」かを指定します。
「図形付き画像」を選択した場合には、ファイル形式（JPEG,PNG）が指定でき、角度（JPEG,PNG は 90°単位）をつけて画像を書き出す事が出来ます。

*図形付の写真にした場合，電子納品のチェックでは改ざんされた写真とみなされることにご注意ください。

「操作」

1. メニューバーの「ツール」「オプション」「出力」を選択します。
2. 各機能の書き出し方法の設定を行います。



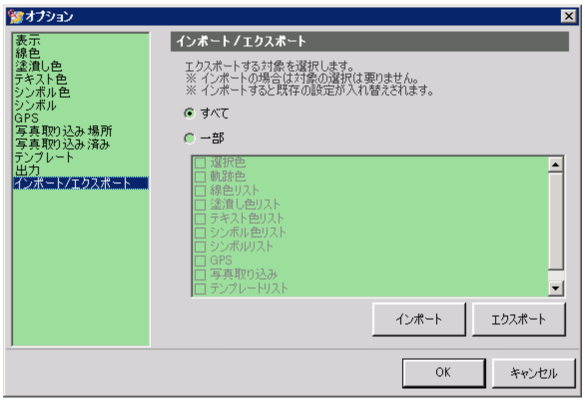
3.13 設定ファイルのインポート／エクスポート

「概要」

このインポート／エクスポート機能を使うことにより複数の Carryfit の設定を共通とすることが出来ます。

「操作」

＜インポート＞



1. 「ツール」「オプション」「インポート／エクスポート」でインポートを押します。
2. 設定ファイル(*.coz)を指定しインポートします。

＜エクスポート＞

1. 「ツール」「オプション」「インポート／エクスポート」でエクスポートを押します。
2. 保存先とファイル名を指定しエクスポートします。

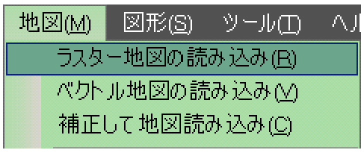
*全ての設定をインポート／エクスポートする場合は「全て」にチェックを入れて「インポート」または「エクスポート」を押します。

*一部の設定のみをインポート／エクスポートする場合は「一部」をチェックして，インポートエクスポートしたい項目をチェックします。

*GPS や写真の取り込みフォルダの設定をインポートする時はお使いの環境との整合にご注意ください（通常はインポートしない場合が多い）。

4.地図（下図）の読み込み（地図モードのみ）

4.1 ラスター地図の読み込み



「概要」

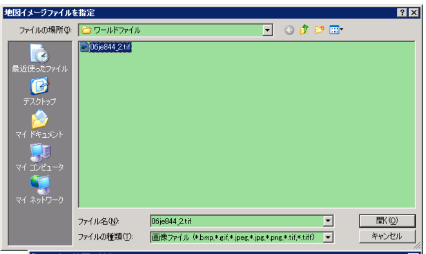
プロジェクトにラスターの画像ファイルを地図として読み込みます。

「操作」

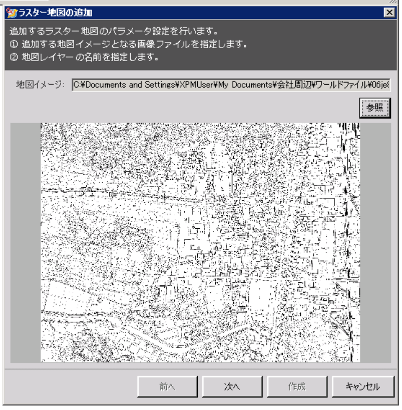
1. 「地図」「ラスター地図の読み込み」を選択します。
2. 「参照」ボタンをクリックして、対象のファイルを選択します。
3. 「開く」ボタンをクリックするとプレビューが表示されます。
4. 「次へ」ボタンをクリックします。
5. 画像の左上と、右下に座標を設定します。

*ワールドファイルがある場合は、自動的に座標が設定されます。

*経度緯度で指定する場合は「経度緯度の変換」をクリックすると緯度と経度を入力できます。



6. 「作成」ボタンをクリックすると、ラスター画像が地図としてプロジェクトに追加されます。



7. コントロールバーの「全体表示」をクリックすると地図がビューエリアに表示されます。

*国土地理院発行の 25000 分の１地形図にワールドファイルを付けるツールとして「CarryfitMapConverter」をご用意しております。

4.2 ベクトル地図の読み込み

「概要」

プロジェクトに Shape ファイルまたは、Sfc ファイルを地図として読み込みます。

*読み込みできるフォーマットは以下のとおりです。他ソフトからエクスポートする際にご注意ください。

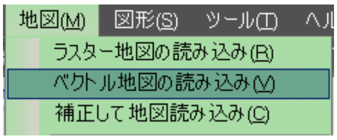
表　2 Shape ファイルの読み込み対応表

図形形式	読み込み可能
Point	×
PolyLine	○
Polygon	○
MultiPoint	×
Point	×
PolyLine	×
Polygon	×
MultiPoint	×
Point	×
PolyLine	×
Polygon	×
MultiPoint	×
MultiPatch	×

表　1 Sfc ファイルの読み込み対応表

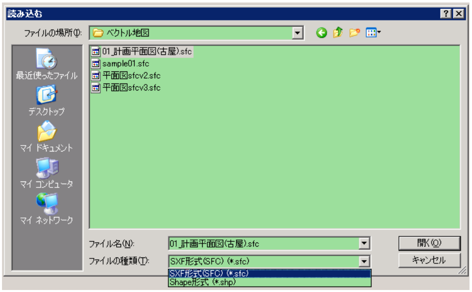
図形形式	読み込み可能
点マーカー	○
線分	○
折線	○
円	○
円弧	○
楕円弧	○
文字	○
スプライン	○
ハッチング	×（一部のみ）

「操作」



1. 「地図」「ベクトル地図の読み込み」を選択します。
2. 対象のファイルを選択します。

*ファイルの種類の選択で SXF 形式と Shape 形式を読み込む地図に応じて切り替えます。



3. 「開く」ボタンをクリックすると地図として読み込まれます。

*下図としての読み込みであり，図形の編集はできません。

4.3 ラスター地図を幾何学補正して読み込み

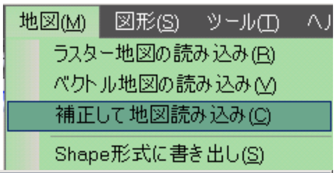
「概要」

プロジェクトにラスター地図を幾何補正によって補正して追加します。地図画像の任意の場所に、2 点から 4 点の基準点を設定して補正します。

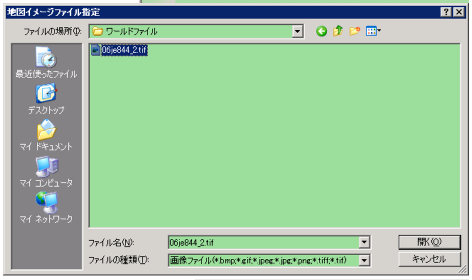
*地図の北方向が上向きになるように補正されます。

「操作」

1. 「地図」「補正して地図読み込み」を選択します。



2. 「参照」ボタンを押して読み込む地図イメージを選択します。

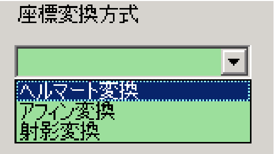


3. 座標変換の方式を選択して、「次へ」をクリックします。変換方式ごとに入力するべき基準点の数が異なります。

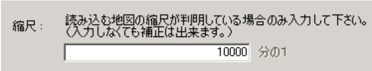
   ヘルマート変換　:　2 点補正

   アフィン変換　　:　3 点補正

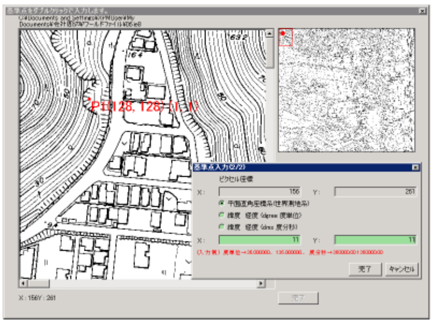
   射影変換　　　　:　4 点補正



4. 読み込む地図の縮尺が分かっている場合は縮尺を入力します。（幾何補正の精度が向上します）



5. 「基準点入力」ボタンをクリックします。
6. 地図画像ウィンドウが表示されるので、基準点を設定する場所をダブルクリックします。
7. 基準点の設定ウィンドウが表示されるので、座標入力形式（平面直角座標、degree 形式の緯度経度、ddmmss 形式の緯度経度）を設定します。
8. 座標入力形式に合わせて基準値の座標の値を入力します。
9. 「完了」ボタンを押して地図画像ウィンドウを閉じます。



10. 基準点を全て設定したら、「作成」ボタンをクリックします。
11. 地図画像を補正した後、プロジェクトに地図として追加されます。（画像の大きさによっては、補正処理に時間がかかります。）

*基準点の設定はなるべく画像上の広範囲にわたるようにします。

*2点設定（ヘルマート）の場合はできるだけ画像の対角線上に設定します。

5.表示

5.1 拡大／縮小

「概要」

クリックした位置をビューエリアの中心として表示画像を拡大または、縮小します。
また、ビューエリアのコントロールバーにある「縮尺リストボックス」「スライドバー」を操作することで現位置を保った状態で拡大・縮小します。

「操作」

＜操作ツールでの拡大／縮小＞

1. 「コントロールバー」で「拡大」または「縮小」を選択します。
2. 「ビューエリア」の写真や地図上でクリックします。
3. 写真や地図が拡大または縮小されます。

＜地図モード＞

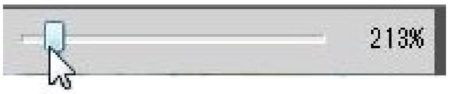
［縮尺リストボックスでの拡大／縮小］

1. 「縮尺リストボックス」の右端のボタンをクリックして、任意の表示縮尺をクリックします。

＜写真モード＞

［スライドバーでの拡大／縮小］

1. 「スライドバー」のハンドルを右に動かすとビューエリア内に描かれた図形や背景が拡大します。
また、左に動かすと縮小されます。



5.2 移動（パンニング）

「概要」

画像の表示される位置を移動することが出来ます。

「操作」

1. 「コントロールバー」で「移動」を選択します。
2. ビューエリア上でマウスをドラッグします。

＊マウスのホイールボタンでドラッグ操作をすると、「移動」ツールを選択せずにパンニング操作が出来ます。（地図モードのみ）

5.3 地図座標表示

「概要」

取込んだ地図の座標(平面直角座標)を表示します（地図モード）。

写真モードでは、左上を起点としたピクセル値が表示されます。

「操作」

1. ウィンドウ左下にマウスポインタの位置の座標（平面直角座標）が表示されます。

5.4 選択図形のスタイル表示

「概要」

選択図形のスタイルを表示します。複数選択時には共通スタイルのみを表示します。

「操作」

1. 「操作エリア」「操作タブ」「図形操作」の「選択」をクリックして、図形を選択します。
2. 「操作エリア」「操作タブ」「図形スタイル」に「線」「塗潰し」「テキスト」「シンボル」の内、選択図形が持つスタイル情報が表示されます。

*複数の図形を選択している時には共通のスタイルのみを表示します。

5.5 軌跡表示

「概要」

軌跡を表示します。必要に応じて非表示にすることも出来ます。

「操作」

1. 情報エリアの「キャンバスタブ」「レイヤー」内にある「軌跡」のチェックボックスのチェックをはずすと非表示となります。

＊軌跡のレイヤーのプロパティで軌跡の色の設定もできます。

5.6 図形名称文字の色／サイズ変更

「概要」

図形につけられた名称を地図上に表示する場合の文字色や文字サイズが変更できます。

「操作」

＜文字の色＞

1. 情報エリアの「キャンバスタブ」「レイヤー」内にある任意のレイヤー をクリックします。
2. 「レイヤーのプロパティ」ボタンをクリックします。
2. レイヤーのプロパティウィンドウの文字色で■をクリックして、文字色を指定します。
3. ■が指定色に変更され、名称の文字色が変更されます。

＜サイズ変更＞

1. 情報エリアの「キャンバスタブ」「レイヤー」内にある任意のレイヤー をクリックします。
2. 「レイヤーのプロパティ」ボタンをクリックします。
2. レイヤーのプロパティウィンドウの文字サイズでフォントサイズを指定します。
3. 名称のフォントサイズが変更されます。

5.7 レイヤー表示の切替

「概要」

ビューエリアに表示されるレイヤーの表示/非表示ができます。

「操作」

1. 情報エリアの「キャンバスタブ」「レイヤー」内にある各レイヤーのチェックボックスのチェックで表示/非表示を切り替えます。

＊個々のレイヤーごと、レイヤーの持つ項目ごとに表示/非表示を切り替えることが出来ます。

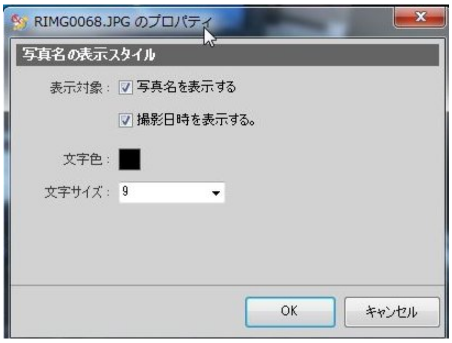
5.8 背景画像（写真）の写真名／撮影日時表示の切替

「概要」

背景写真上に表示される撮影日時表示の切り替えが出来ます

「操作」

1. 情報エリアの「キャンバスタブ」「レイヤー」内にある写真のレイヤーをクリックします。
2. 「レイヤーのプロパティ」ボタンをクリックします。
3. 「写真名を表示する」「撮影日時を表示する」のチェックをはずすと非表示になります。
4. 文字色の■をクリックして、文字色を指定します。
5. 文字サイズでフォントサイズを指定します。



5.9 写真のサムネイル／一覧表示を切替

「概要」

図形に関連付けた写真の表示形式を切り替えられます。

「操作」

1. 情報エリアの「図形情報タブ」「図形関連」内の「写真の表示切替ボタン」でサムネイル表示・一一覧表示、プレビュー表示を切り替えます。

*プレゼン的な利用の場合はプレビュー表示が有効です。

6.GPS（地図モードのみ）

6.1 GPS 通信開始・終了

「概要」

GPS レシーバとの通信を開始したり停止したりします。

ツールメニューの「オプション」「GPS」で Com ポートの通信設定を事前に行っておく必要があります。

「操作」

1. 「操作エリア」「GPS タブ」「GPS 通信」「通信開始」ボタンを押して開始・終了を指示します。

6.2 GPS 座標表示

「概要」

操作エリアの「GPS タブ」を選択すると GPS レシーバから受取った現在位置の座標をリアルタイムで確認できます。

「補足説明」

「衛星捕捉中」と表示された場合は、GPS レシーバが衛星を捕捉出来ていない事が考えられます。

6.3 現在地表示

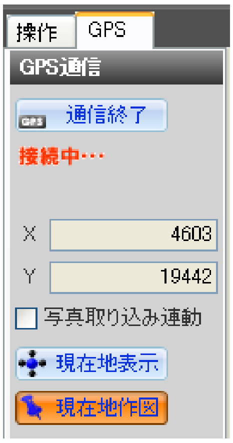
「概要」

GPS の信号を利用して、現在位置が中心となるように地図を移動させます。
地図の表示されている部分と現在位置が大きくずれているときに利用すると便利です。

「操作」

1. 「操作エリア」「GPS タブ」「GPS 通信」「現在地表示」ボタンを押します。

6.4 現在地作図



「概要」

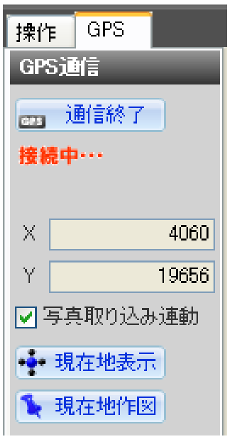
GPS が示す現在位置に、シンボルを作図します。

「操作」

1. 「操作エリア」「GPS タブ」「GPS 通信」「現在地作図」ボタンを押します。
2. 描画ツールのシンボル描画時に使われたスタイルのシンボルがプロットされます。

6.5 写真撮影時刻の軌跡位置に自動的に写真を関連付け（リアルタイム）

「概要」



GPS が示す現在地に、シンボルを作図し、リアルタイムで写真を関連付けします。

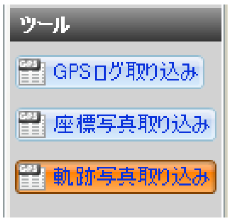
「操作」

1. 「操作エリア」「GPS タブ」「GPS 通信」「写真取り込み連動」にチェックを入れます。
2. カメラで写真を撮影し、転送します。
3. 描画ツールのシンボル描画時に使われたスタイルのシンボルがプロットされ、写真が関連付けられます。

6.6 写真撮影時刻の軌跡位置に自動的に写真を関連付け（後から）

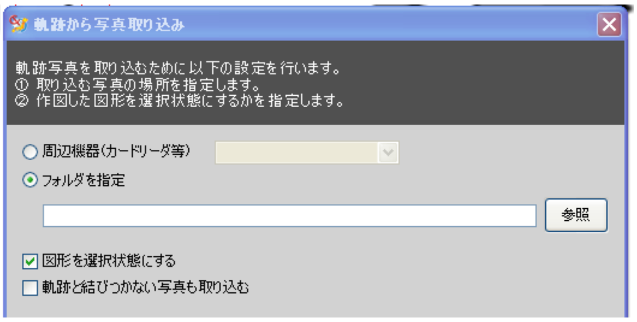
「概要」

写真の撮影時刻と軌跡点の持つ時刻をマッチングして、写真を関連付けます。



「操作」

1. 「地図」「軌跡から写真取り込み」をクリックします。
2. または、「操作エリア」「GPS タブ」「ツール」「軌跡から写真取り込み」をクリックします。
3. 取り込む写真の場所を指定します。
4. 作図した図形を選択状態にするかを指定します。
5. 「取り込み」をクリックします。

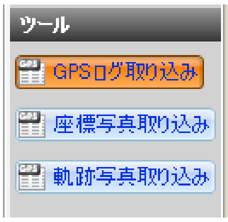


6.7 GPS のログデータ（nmea データ）から軌跡描画および写真関連付け

「概要」

ログ機能付の GPS レシーバなどで保存した GPS ログを取り込み、地図上に軌跡を表示します。ログの取り込みと同時に写真を関連付けることもできます。

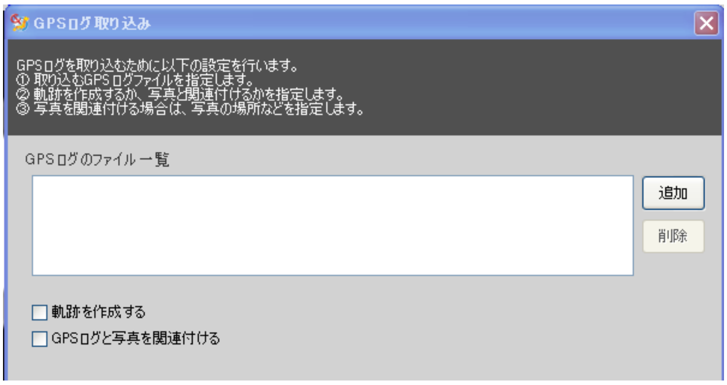
「操作」



1. 「地図」「GPS ログ取り込み」をクリックします。
   または、「操作エリア」「GPS タブ」「ツール」「GPS ログ取り込み」をクリックします。

*GPS ログの形式は NMEA フォーマットに対応します。

*NMEA フォーマットファイルの作成方法はお使いの各 GPS レシーバの説明書などを参考にしてください。



2. 追加ボタンから取り込みたい GPS ログを指定します。
3. 軌跡を作成するか、写真と関連付けるかを指定します。
   - ・軌跡を作成する場合はチェックを入れる（推奨）
   - ・軌跡点の時刻と写真撮影時刻を利用して、軌跡点の位置に写真を関連付ける場合はチェックを付ける

「写真を関連付ける場合」

- ・写真のあるフォルダを指定する。
- ・写真を関連付けたシンボル図形を選択状態にするかどうかチェックする。
- ・軌跡点の時刻と写真の撮影時刻で一致する時刻がない場合の写真の取扱い（適当な位置に貼り付けるかどうか）をチェックする（時刻がマッチしない場合の写真は、関連付けるシンボルが「写真×」になります）。

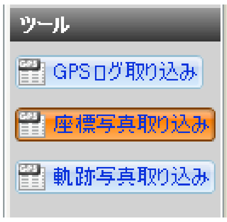
4. 「開く」をクリックします。

6.8 位置情報を持つ写真の読み込みと図形描画および写真関連付け

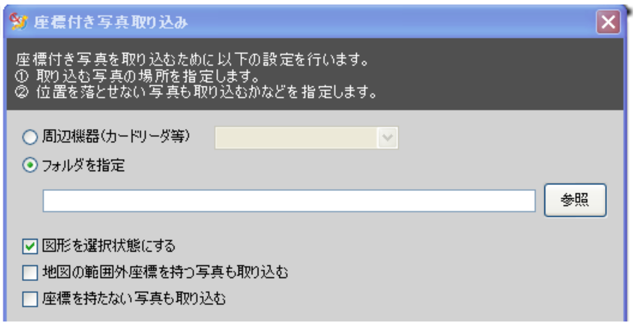
「概要」

位置情報付きの写真データを、当該位置にシンボルを描画して関連付けます。位置情報付きの写真は GPS 付きの携帯電話や GPS 機能搭載のカメラなどを利用して作られます。

「操作」



1. 「地図」「座標付き写真取り込み」をクリックします。
   または、「操作エリア」「GPS タブ」「ツール」「座標付き写真取り込み」をクリックします。
2. 取り込む写真の場所を指定します。
3. 位置を落とせない写真も取り込むかなどを指定します。
4. 「取り込み」をクリックします。



*カードリーダーなどの周辺機器から取り込む場合は、PC に周辺機器を認識させてから、「座標付き写真取り込み」をクリックして下さい。

6.9 GPS ログの管理

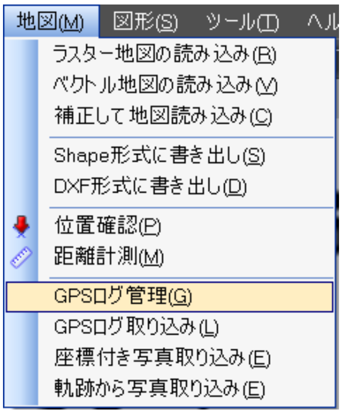
「概要」

Carryfit2.0 は GPS と接続中に GPS から送られてきた生データを GPS ログとして保存します。ここでは Carryfit2.0 が保存した GPS ログの管理を行います（「書き出し」と「削除」）。GPS ログ(nmea フォーマット)をファイルに書き出します。

*他の他のハード、例えばログ機能付き GPS 等で収集した GPS ログは、別の機能「GPS ログの読み込み」を使って読み込むことができますので、そちらを参照してください。

*GPS ログはシステム（GPS と接続して作業したパソコン）ごとに保存されます。プロジェクトファイルではなくシステムファイルとして保存されます。

「操作」



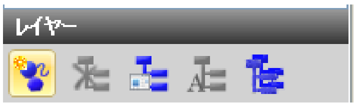
1. 「地図」「GPS ログ管理」をクリックします。
2. 書き出したいログを選択し（Shift キーで複数選択可）「GPS ログ書き出し」をクリック
3. エクスポートした GPS のログデータを保存するフォルダを指定し、保存します。
4. 不要なログは 2.と同様に選択した後、削除ボタンを押して削除できます。

*書き出したファイルは、nmea フォーマットの GPS ログを読み込む機能を有するアプリケーションで利用できます。Carryfit の「GPS ログ取り込み」でも利用できます。

*NMEA フォーマットに関する詳しい内容は、『京都大学大学院情報学研究科 社会情報学専攻生物圏情報学講座』「GPS の森」「資料」「NMEA-0183 フォーマット」(http://bg66.soc.i.kyoto-u.ac.jp/forestgps/nmea.html)で解説されています。 参考にしてください。

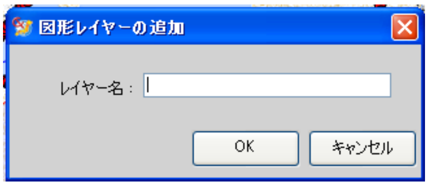
7.レイヤーの追加や設定（属性の設定を含む）

7.1 レイヤーの追加（図形レイヤー）



「概要」

図形レイヤーに新規レイヤーを追加します。



「操作」

1. 「情報エリア」「キャンバスタブ」「レイヤー」の「図形レイヤーを追加ボタン」をクリックします。
2. 「図形レイヤーを追加」ウィンドウが開くので、レイヤー名をつけて「OK」をクリックします。

7.2 レイヤーのプロパティ(図形レイヤー)

「概要」

図形レイヤーのプロパティを表示、編集します。

「操作」

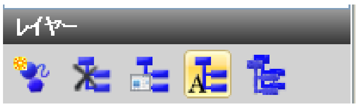
1. 「情報エリア」「キャンバスタブ」「レイヤー」で当該レイヤーを選択し、「レイヤーのプロパティボタン」をクリックします。
2. 「レイヤーのプロパティ」ウィンドウが開くので、レイヤーの図形属性、図形名の表示スタイルを編集し「OK」をクリックします。

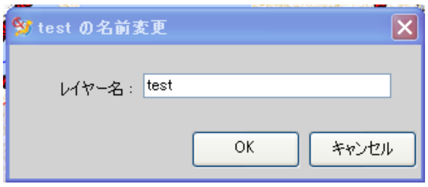
7.3 レイヤーの名前変更（地図レイヤー、図形レイヤー、軌跡レイヤー）

「概要」

地図レイヤー、図形レイヤー、軌跡レイヤーの名前を変更します。

「操作」





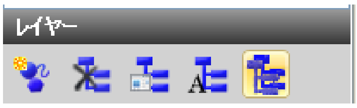
1. 「情報エリア」「キャンバスタブ」「レイヤー」で当該レイヤーを選択し、「レイヤーの名前変更ボタン」をクリックします。
2. 「レイヤーの名前変更」ウィンドウが開くので、レイヤー名を編集し「OK」をクリックします。

7.4 レイヤーの複製（図形レイヤー）

「概要」

図形レイヤーを複製します。

「操作」



1. 「情報エリア」「キャンバスタブ」「レイヤー」で当該レイヤーを選択し、「レイヤーの複製ボタン」をクリックします。
2. レイヤーが複製されます。

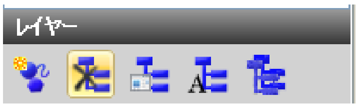
*レイヤー上に作図された図形は複製されません。

7.5 レイヤーの削除（地図レイヤー、図形レイヤー）

「概要」

地図レイヤー、図形レイヤーを削除します。

「操作」



1. 「情報エリア」「キャンバスタブ」「レイヤー」で当該レイヤーを選択し、「レイヤーの削除ボタン」をクリックします。
2. レイヤーが削除されます。

*レイヤー上の図形に関連付けがある場合は削除されません。

8.作図

8.1 図形を描画するレイヤーの選択

「概要」

作図したい図形レイヤーを選択します。

「操作」

1. 「情報エリア」「キャンバスタブ」「レイヤー」「作図」で当該レイヤーを選択します。
2. 作図します。

*選択されたレイヤーは太字表示になります。

8.2 円を描く

「概要」

ビューエリアにドラッグした矩形範囲に内接する円を作図します。

＜図形のスタイル属性＞

「線」：線種、線色、線幅、透過

「塗潰し」：塗潰し色、透過

「操作」

1. 「操作エリア」「操作タブ」「円」を選択します。
2. 詳細設定で図形のスタイルを設定します。
3. ビューエリアに円範囲の 1 点目をクリックし、ドラッグして 2 点目でドラッグを終了します。

8.3 矩形を描く

「概要」

ビューエリアにドラッグした範囲に矩形を作図します。

＜図形のスタイル属性＞

「線」:線種、線色、線幅、透過

「塗潰し」:塗潰し色、透過

「操作」

1. 「操作エリア」「操作タブ」「矩形」を選択します。
2. 詳細設定で図形のスタイルを設定します。
3. ビューエリアに矩形範囲の 1 点目からドラッグを開始して 2 点目でドラッグを終了します。

*図形の変更については、「ヘルプ」「編　集」の項を参照してください。

8.4 多角形を描く

「概要」

ビューエリアにクリックした点を順に結線し、終点と始点を結んで多角形を作図します。

＜図形のスタイル属性＞

「線」：線種、線色、線幅、透過

「塗潰し」：塗潰し色、透過

「操作」

1. 「操作エリア」「操作タブ」「多角形」を選択します。
2. 詳細設定で図形のスタイルを設定します。
3. ビューエリアに多角形を構成する点位置をクリックして、「図形確定」をクリック または、ダブルクリックで終了します。

*図形の変更については、「ヘルプ」「編 集」の項を参照してください。

8.5 矢印を描く

「概要」

ビューエリアにドラッグした2点を結んで矢印を作図します。

＜図形のスタイル属性＞

「線」：線種、線色、線幅、透過

「操作」

1. 「操作エリア」「操作タブ」「矢印」を選択します。
2. 詳細設定で図形のスタイルを設定します。
3. ビューエリアに矢印の始点位置をクリックし、終点位置までドラッグします。

*図形の変更については、「ヘルプ」「編 集」の項を参照してください。

8.6 折線を描く

「概要」

ビューエリアにクリックした点を順に結線し、折線を作図します。

＜図形のスタイル属性＞

「線」:線種、線色、線幅、透過

「操作」

1. 「操作エリア」「操作タブ」「折線」を選択します。
2. 詳細設定で図形のスタイルを設定します。
3. ビューエリアに折線を構成する位置をクリックして、「図形確定」をクリック
   または、ダブルクリックで終了します。

*図形の変更については、「ヘルプ」「編　集」の項を参照してください。

8.7 自由線を描く

「概要」

ビューエリアにドラッグした軌跡点を順に結線し、自由線を作図します。

＜図形のスタイル属性＞

「線」：線種、線色、線幅、透過

「操作」

1. 「操作エリア」「操作タブ」「自由線」を選択します。
2. 詳細設定で線のスタイルを設定します。
3. ビューエリアに自由線を構成する位置をドラッグし、ドラッグを終了します。

*図形の変更については、「ヘルプ」「編 集」の項を参照してください。

8.8 シンボルを描く

「概要」

ビューエリアにクリックした位置に、シンボルを作図します。

＜図形のスタイル属性＞

「シンボル」：シンボル種類、シンボル色、シンボルサイズ、透過

「操作」

1. 「操作エリア」「操作タブ」「シンボル」を選択します。
2. シンボルのスタイルを設定します。
3. ビューエリアにシンボルを書く位置をクリックします。

*図形の変更については、「ヘルプ」「編　集」の項を参照してください。

8.9 テキストを書く

「概要」

ビューエリアにクリックした位置に、テキストを作図します。

＜図形のスタイル属性＞

「テキスト枠線」:線種、線色、線幅、透過

「テキスト枠塗潰し」:塗潰し色、透過

「テキスト」:フォント、テキスト色、テキストサイズ、透過

「操作」

1. 「操作エリア」「操作タブ」「テキスト」を選択します。
2. 詳細設定でテキスト（図形）のスタイルを設定します。
3. ビューエリアにテキストを書く位置をクリックします。
4. 「テキスト入力ポップアップウィンドウ」が表示されます。
5. キーボードから文字列を入力して「OK」ボタンをクリックします。

*図形の変更については、「ヘルプ」「編　集」の項を参照してください。

9.属性値の入力

9.1 図形にユーザー名称を入力

「概要」

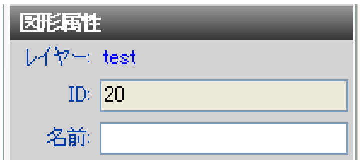
図形に任意のユーザー名称を設定します。

「説明」

図形にユーザー名称を付与することで、図形を独自の名前で管理できます。特に、関連エクスプローラを使用するときには便利です。

「操作」

1. 「情報エリア」「図形情報タブ」「図形属性」の「名前」に名前を入力します。
2. 「名前」からフォーカスが外れれば、変更が反映されます。



*関連エクスプローラを使って自動的にユーザー名を入力することもできます。

9.2 図形の属性項目に値を入力

「概要」

図形の属性項目に属性値を入力します。

「操作」

1. 「情報エリア」「図形情報タブ」「図形属性」の「属性値」に値を入力します。
2. 「属性値」からフォーカスが外れれば、変更が反映されます。

10.図形の編集

10.1 図形の選択

「概要」

ビューエリアにある一つ又は複数の図形を選択します。

「操作」

1. 「操作エリア」「選択」を選択します。
   ビューエリアをクリックまたはドラッグします。
2. クリックした点またはドラッグした範囲内に接する図形（図形線上、図形内部）が選択状態になります。

＜キーボードを使う方法＞

「Shift＋クリック」でクリックした図形を追加選択します。

「Ctrl＋クリック」でクリックした図形を選択状態から解除します。

10.2 図形の単一選択

「概要」

ビューエリアにある一つの図形を選択します。

「操作」

1. 「操作エリア」「選択」を選択します。
2. ビューエリアをクリックまたはドラッグします。
3. 複数の図形が選択された場合、「ツールバー」の「単一選択」をクリックします。
4. 「図形の単一選択」ウィンドウに選択されている図形のシステム ID およびユーザー名が表示されるので、選択したい図形を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

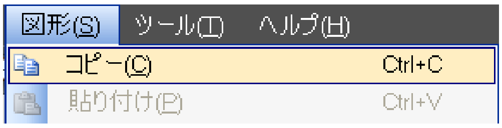
10.3 図形の複製

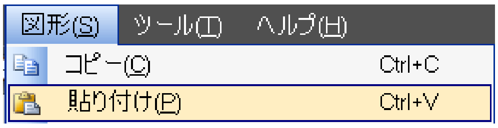
「概要」

ビューエリアにある一つ又は複数の図形を複製します。

「操作」

1. ビューエリアの一つ又は複数の図形を選択します。
2. 「図形」「コピー」をクリックします。
3. 「図形」「貼り付け」をクリックします。
4. 選択した図形に対して、少しずらして図形が複製されます。





*複製されるのは、図形とそのスタイルだけでその他の情報は複製されません。

10.4 図形の削除

「概要」

ビューエリアにある一つ又は複数の図形を削除します。

「操作」

1. ビューエリアの一つ又は複数の図形を選択します。
2. 「ツールバー」の「削除」をクリックします。
3. 「図形削除確認」ポップアップウィンドウが表示され、削除する場合は「OK」をクリックします。

10.5 図形の移動

「概要」

ビューエリアにある一つ又は複数の図形の位置を移動します。

「操作」

1. ビューエリアの一つ又は複数の図形を選択します。
2. 「ツールバー」の「移動」をクリックします。
3. 選択した図形内部の任意の位置をクリックし移動先までドラッグします。

10.6 図形の拡大･縮小

「概要」

ビューエリアにある図形を拡大･縮小します。

「操作」

1. ビューエリアにある一つの図形（円／矩形）を選択します。
2. 「ツールバー」「拡大･縮小」をクリックします。
3. 選択された図形にカーソルを合わせると矢印になるところでドラッグ＆ドロップで拡大･縮小を行います。

＊拡大･縮小ボタンで拡大･縮小を行える図形は、円／矩形です。

10.7 図形の頂点移動

「概要」

ビューエリアにある図形の頂点を移動します。

「操作」

1. ビューエリアにある一つの図形(多角形／矢印／折れ線／自由線)を選択します。
2. 「ツールバー」「頂点移動」をクリックします。
3. 選択された図形の頂点にカーソルを合わせると赤くなるところでドラッグ＆ドロップで頂点移動を行います。

*頂点移動ボタンで拡大・縮小を行える図形は、多角形／矢印／折れ線／自由線です。

10.8 図形の線スタイル変更

「概要」

選択した図形の線スタイルを変更します。

「説明」

線スタイルを設定できる図形の形状は、矢印／折線／自由線／円／矩形／多角形／テキストです。これらの形状以外を含んで複数選択されている場合は、これらの形状の図形のみに線スタイルが適用されます。

「操作」

1. 該当の図形を選択します。
2. 「操作エリア」「操作タブ」「図形スタイル」の「線スタイル」→「線を使用する」「線色」「線幅」の値を変更します。
3. 選択されているすべての図形に、変更が反映されます。

＜単一図形により細かく設定したい場合＞

1. 該当の単一図形を選択します。
2. 「操作エリア」「操作タブ」「図形スタイル」の「詳細設定」リンクをクリックします。
3. 「線」タブを選択して、「線を使用する」「線種」「線色」「線幅」「透過率」の値を変更します。
4. 「OK」をクリックすれば、選択されている図形に変更が反映されます。

10.9 図形の塗潰しスタイル変更

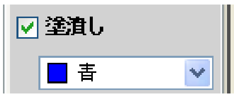
「概要」

選択したエリア図形の塗潰しスタイルを変更します。

「説明」

塗潰しスタイルを設定できる図形の形状は、円／矩形／多角形／テキストです。これらの形状以外を含んで複数選択されている場合は、これらの形状の図形のみに塗潰しスタイルが適用されます。

「操作」



1. 該当の図形を選択します。
2. 「操作エリア」「操作タブ」「図形スタイル」の「塗潰しを使用する」「塗潰し色」の値を変更します。
3. 選択されているすべてのエリア図形に、変更が反映されます。

＜単一図形により細かく設定したい場合＞

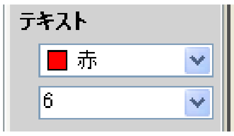
1. 該当の単一エリア図形を選択します。
2. 「操作エリア」「操作タブ」「図形スタイル」の「詳細設定」リンクをクリックします。
3. 「塗潰し」タブを選択して、「塗潰しを使用する」「線色」「透過率」の値を変更します。
4. 「OK」をクリックすれば、選択されているエリア図形に変更が反映されます。

10.10 図形のテキストスタイル変更

「概要」
選択したテキスト図形のテキストスタイルを編集します。

「説明」
テキストスタイルを設定できる図形の形状は、テキストのみです。テキスト図形以外を含んで複数選択されている場合は、テキスト図形のみにテキストスタイルが適用されます。

「操作」
1. 該当の図形を選択します。
2. 「操作エリア」「操作タブ」「図形スタイル」の「テキスト色」「サイズ」の値を変更します。
3. 選択されているすべてのテキスト図形に、変更が反映されます。



＜単一図形により細かく設定したい場合＞
1. 該当の単一テキスト図形を選択します。
2. 「操作エリア」「操作タブ」「図形スタイル」の「詳細設定」リンクをクリックします。
3. 「テキスト」タブを選択して、「フォント」「テキスト色」「サイズ」「透過率」の値を変更します。
4. 「OK」をクリックすれば、選択されているテキスト図形に変更が反映されます。

10.11 図形のシンボルスタイル変更

「概要」

選択したシンボル図形のシンボルスタイルを変更します。

「説明」

シンボルスタイルを設定できる図形の形状は、シンボルのみです。シンボル図形以外を含んで複数選択されている場合は、シンボル図形のみにシンボルスタイルが適用されます。

「操作」

1. 該当の図形を選択します。
2. 「操作エリア」「操作タブ」「図形スタイル」の「シンボル」「シンボル色」「サイズ」の値を変更します。
3. 選択されているすべてのシンボル図形に、変更が反映されます。

＜単一図形により細かく設定したい場合＞

1. 該当の単一シンボル図形を選択します。
2. 「操作エリア」「操作タブ」「図形スタイル」の「詳細設定」リンクをクリックします。
3. 「シンボル」タブを選択して、「シンボル」「シンボル色」「サイズ」「透過率」の値を変更します。
4. 「OK」をクリックすれば、選択されているシンボル図形に変更が反映されます。

10.12 テキストの編集

「概要」

選択したテキスト図形の文字列を編集します。

「操作」

1. 該当の図形を選択します。
2. 「情報エリア」「図形情報タブ」「図形スタイル」の「テキスト編集」をクリックすると、「テキスト入力ポップアップウィンドウ」が表示されます。
3. 現在の文字列がボックス内に入力されているので、それを変更して「OK」をクリックすれば、変更が反映されます。

10.13 図形に関連付けた写真にユーザー名称

「概要」

図形に関連付けた写真に任意のユーザー名称を設定します。

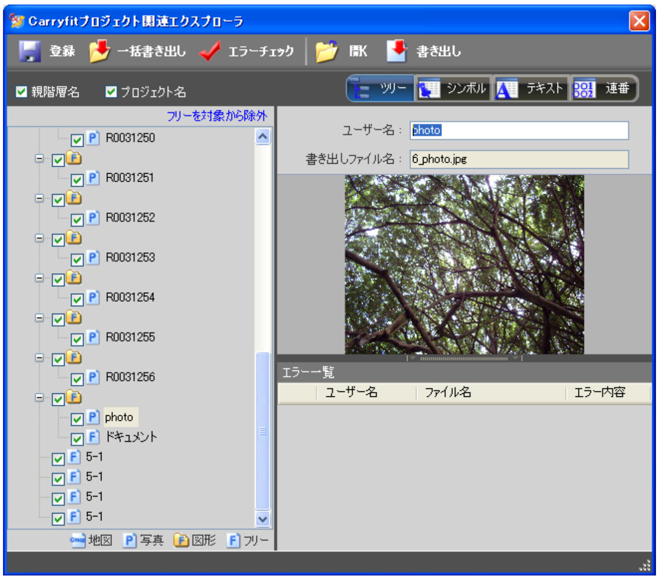
「操作」

1. 写真を関連付けた図形を選択します。
2. 「情報エリア」「図形情報タブ」「図形関連」の関連付けられた写真を選択し、写真名をクリックします。
3. 名前を入力します。
4. 写真名からフォーカスが外れれば、変更が反映されます。

*プレビュー表示のときは変更できません。

＜関連エクスプローラで変更する場合＞

1. 「ツール」「関連エクスプローラ」をクリックします。
2. 図形や写真、任意ファイルの関係がツリー表示されます。
3. 当該ファイルを選択します。
4. ユーザー名を変更します。



10.14 図形に関連付けたファイルにユーザー名称

「概要」

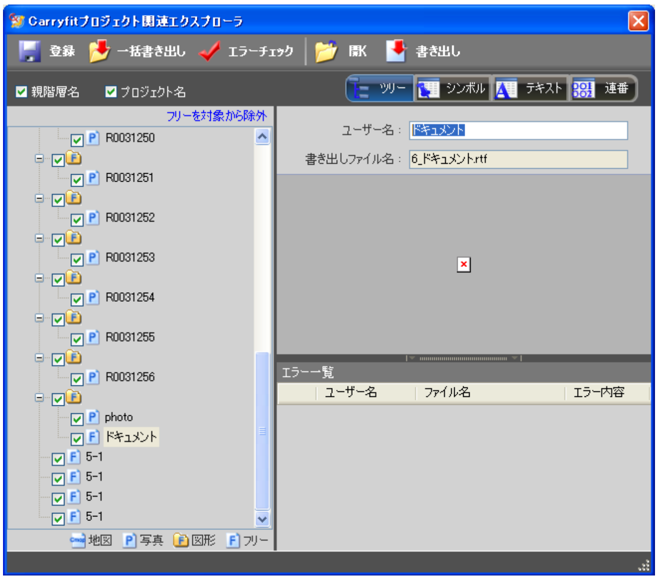
図形に関連付けたファイルに任意のユーザー名称を設定します。

「操作」

1. ファイルを関連付けた図形を選択します。
2. 「情報エリア」「図形情報タブ」「関連ファイル」の関連付けられたファイルを選択し、ファイル名をクリックします。
3. 名前を入力します。
4. ファイル名からフォーカスが外れれば、変更が反映されます。

＜関連エクスプローラで変更する場合＞

1.「ツール」「関連エクスプローラ」をクリックします。
2. 図形や写真、任意ファイルの関係がツリー表示されます。
3. 当該ファイルを選択します。
4. ユーザー名を変更します。



11.図形に写真やファイルを関連付け

11.1 図形に写真を関連付け(主にカメラから)

「概要」

図形に写真を関連付けます。関連付けた写真はキャンバスとして作図できます。

「操作」

1. 「ツール」「オプション」の「写真取り込み場所」の項目の「写真の取り込みディレクトリ」で指定したフォルダに写真を保存します。
2. 写真を関連付けたい図形を選択します。
3. 「情報エリア」の「図形情報」タブの「図形関連」の「カメラアイコン」をクリックします。
4. 取り込み設定で指定したフォルダ内にある未関連付けの写真ファイルが表示されます。
5. 関連付けたいファイルを選択し「追加←」ボタンをクリックします。
6. 「取り込み」ボタンをクリックします。

11.2 図形に写真を関連付け（フォルダからドラッグ＆ドロップで）

「概要」

図形に写真を関連付けます。関連付けた写真はキャンバスとして作図できます。

「操作」

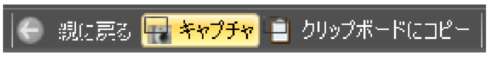
1. 写真を関連付けたい図形を選択します。
2. 関連付けたい写真があるフォルダを開きます。
3. 関連付けたいファイルを「情報エリア」の「図形情報」タブの「図形関連」のサムネイル表示場所にドラッグ＆ドロップします。

11.3 表示領域をキャプチャして、写真として関連付け

「概要」

「ビューエリア」に表示中の画像をキャプチャし、同時にキャプチャ範囲の外枠に矩形を作図し、キャプチャした画像を当該矩形に関連付けます。

「操作」



1. 拡大・縮小などを用いて、キャプチャしたい範囲を「ビューエリア」に表示します。
2. 「ビューエリア」の「ツールバー」にある「キャプチャ」ボタンをクリックします。
3. 「ビューエリア」全面にキャプチャ範囲を表す矩形が作図され、表示範囲を背景画像とする子写真が関連付けられます。

*描画ツールの矩形描画時に使われたスタイルの矩形がプロットされます。

11.4 図形にテンプレートファイルを関連付け

「概要」

予め登録済のテンプレートファイルを図形に関連付けます。

「操作」

1. 予めメニューの「ツール」「オプション」「テンプレート」からテンプレートを登録します。
2. テンプレートを関連付けたい図形を選択します。
3. 「テンプレートから新規作成アイコン」をクリックします。
4. テンプレート登録されているファイルの一覧がプルダウンメニューとして表示されます。
5. 当該テンプレートを選択します。

11.5 図形に任意のファイルを関連付け（フォルダからドラッグ＆ドロップで）

「概要」

フォルダからのドラッグ＆ドロップで任意のファイルを図形に関連付けます。

「操作」

1. ファイルを関連付けたい図形を選択します。
2. 関連付けたいファイルがあるフォルダを開きます。
3. 関連付けたいファイルを「情報エリア」の「図形情報」タブの「図形関連」の「関連ファイル」にドラッグ＆ドロップ（複数可）します。

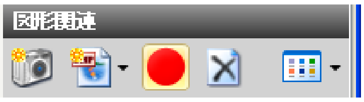
11.6 図形に音声を関連付け

「概要」

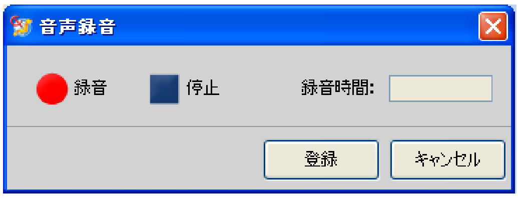
パソコンに入力した音声を録音し、作成した音声ファイル（.mp3 形式）を図形に関連付けます。

「操作」

1. パソコンに音声入力をするための入力機器（マイク、ヘッドセットなど）を用意します。
2. パソコンに音声入力が行える状態に入力機器を設定、接続します。（詳しくは「よくある質問」の「Bluetooth 対応のヘッドセットを使うには？」を参照してください。）
3. 「情報エリア」の「図形情報」タブの「図形関連」の赤丸の「音声を録音」アイコンをクリックします。
4. 「音声録音」ウィンドウが表示されます。「録音」ボタンをクリックして、音声の録音を開始します。



5. 入力機器から音声を入力して録音します。（「録音」ボタンをクリックすると、現在録音した内容を破棄して新たに録音を開始します。）



6. 「停止」ボタンをクリックして、録音を終了します。
7. ウィンドウの下にある「登録」ボタンを押して、録音内容を図形に登録します。

*登録ボタンを押さないと音声は図形に登録されません。

8. 図形の「図形情報」タブの「関連」の「音声」に音声ファイルが登録されます。
9. 「図形情報」タブの「関連」の「音声」から録音した音声ファイルを選択しダブルクリックすると、プレイヤーが起動します。
10. プレイヤーで録音内容を確認出来ます。

11.7 関連付けた写真を開く

「概要」

Carryfit において選択中の図形に関連付けられた子写真を開きます。

「操作」

1. Cfit プロジェクトが関連付けられている図形を選択します。
2. 「情報エリア」「図形情報タブ」「図形関連」の「写真を開く」ボタンををクリックします。

12.キャンバスにファイルを関連付け

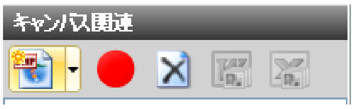
12.1 キャンバスにテンプレートファイルを関連付け

「概要」

予め登録済のテンプレートファイルを「ビューエリア」に表示中の写真に関連付けます。

「操作」

1. 予めメニューの「ツール」「オプション」「テンプレート」からテンプレートを登録します。
2. 図形が何も選択されていない状態にする。
3. 「テンプレートから新規作成」アイコンをクリックします。
3. テンプレート登録されているファイルの一覧がプルダウンメニューとして表示されます。
4. 当該テンプレートを選択します。



12.2 キャンバスに任意のファイルを関連付け（フォルダからドラッグ＆ドロップで）

「概要」

フォルダからのドラッグ＆ドロップで任意のファイルを「ビューエリア」に表示中の写真に関連付けます。

「操作」

1. 図形が何も選択されていない状態にします。
2. 関連付けたいファイルがあるフォルダを開きます。
3. 関連付けたいファイルを「情報エリア」の「キャンバス」タブの「キャンバス関連」の「関連ファイルリスト」にドラッグ＆ドロップ（複数可）します。

12.3 キャンバスに音声を関連付け

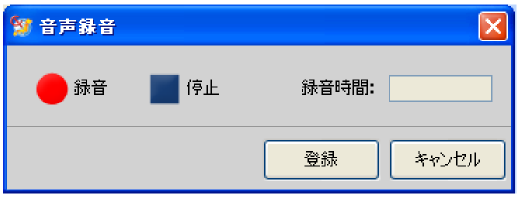
「概要」

パソコンに入力した音声を録音し、作成した音声ファイル(.mp3 形式)を「ビューエリア」に表示中の写真に関連付けます。

「操作」

1. パソコンに音声入力をするための入力機器(マイク、ヘッドセットなど)を用意します。
2. パソコンに音声入力が行える状態に入力機器を設定、接続します。(詳しくは「よくある質問」の「Bluetooth 対応のヘッドセットを使うには？」を参照してください。)
3. 「情報エリア」の「キャンバス情報」タブの「キャンバス関連」の赤丸の「音声を録音」アイコンをクリックします。

4. 「音声録音」ウィンドウが表示されますので、赤丸の「録音」ボタンをクリックして、音声の録音を開始します。



5. 入力機器に向かって、録音したい内容を喋ります。
6. 黒い四角の「停止」ボタンをクリックして、録音を終了します。
7. ウィンドウの下にある「登録」ボタンを押して、録音内容を写真に登録します。

*登録ボタンを押さないと音声は図形に登録されません。

8. 写真に音声ファイルが登録されます。
9. 「写真情報」タブの「関連」の「音声」から録音した音声ファイルを選択しダブルクリックすると、プレイヤーが起動します。
10. プレイヤーで録音内容を聴き、正しく録音されているか確認します。

13.出力

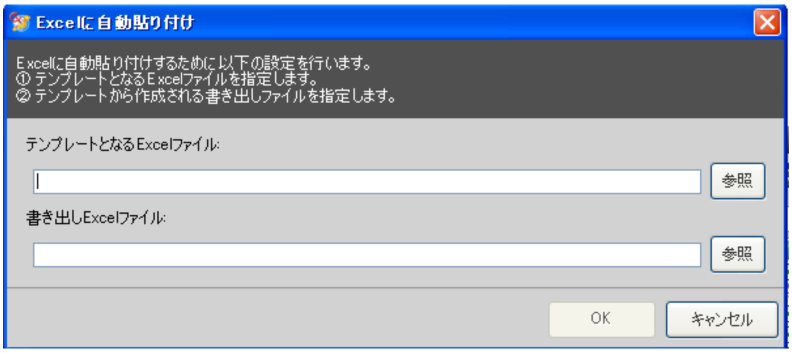
13.1 Excel に写真を自動貼り付け

「概要」

表示画像及びシンボルやテキストに関連付けた写真を、Excel 図形に自動的に貼り付けます。Carryfit に関連付けてない Excel ファイルに貼り付ける方法と Carryfit に関連付けた Excel ファイルに貼り付ける方法があります。

「操作（Carryfit と関連付けてない Excel ファイルに貼り付ける場合）」

1. 配置図として最適になるように地図を拡大表示します（表示している範囲が貼り付けられます）。
2. 自動貼り付けを行いたい写真が関連づけられたシンボルやテキストを選択状態にします。
3. 「ファイル」の「Excel に自動貼り付け」を選択します。
4. 写真の貼り付け先となる Excel 帳票の雛型（*.xls, *xlsx)を「テンプレートとなる Excel ファイル」に指定します。
5. 写真を貼り付けたファイルを保存するファイルの保存先を「書き出し Excel ファイル」に指定します。
5. 「OK」ボタンをクリックします。
6. 「テンプレートファイル」で指定した Excel 帳票にオートシェイプに”表示画像”や”写真”が書き出されます。
7. 作成されたファイルは「書き出しファイル」で指定したフォルダに保存されます。



「操作（Carryfit と関連付けた Excel ファイルに貼り付ける場合）」

1. キャンバスにテンプレートファイルを関連付けます。(「12.1 キャンバスにテンプレートファイルを関連付けを参照」)
2. 配置図として最適になるように地図を拡大表示します（表示している範囲が貼り付けられます）。
3. 自動貼り付けを行いたい写真が関連づけられたシンボルやテキストを選択状態にします。
4. 関連づけたテンプレートファイルを選択状態にします。
5. エクセル自動貼り付けアイコンが選択可能状態になります。
6. エクセル自動貼り付けアイコンを押します。
7. 関連杖けられているエクセルファイルが立ち上がり、表示画像や写真が貼り付きます。

*使用するExcel帳票については、「よくある質問」の「自動貼り付けを利用するためのExcel帳票の作り方」の項を参照してください。

命名規則

・表示中の画像（図形含む）を Excel に貼り付ける場合：図形の名称を「cfit 表示画像」とする。

・シンボルに関連付けた写真を Excel に貼り付ける場合：図形の名称を「cfit シンボル○○○」とする。

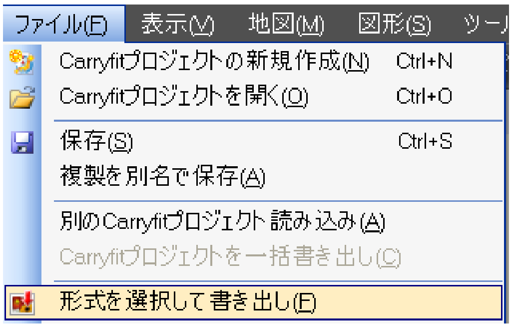
・テキストに関連付けた写真を Excel に貼り付ける場合：図形の名称を「cfit テキスト□□□」とする。

・「cfit シンボル○○○,1」や「cfit シンボル○○○,2」のように命名すると、「シンボル○○○」に関連付けられた複数枚の写真にも対応できます。「cfit テキスト」も同様に複数枚の写真に対応できます。

13.2 表示画像をファイル出力

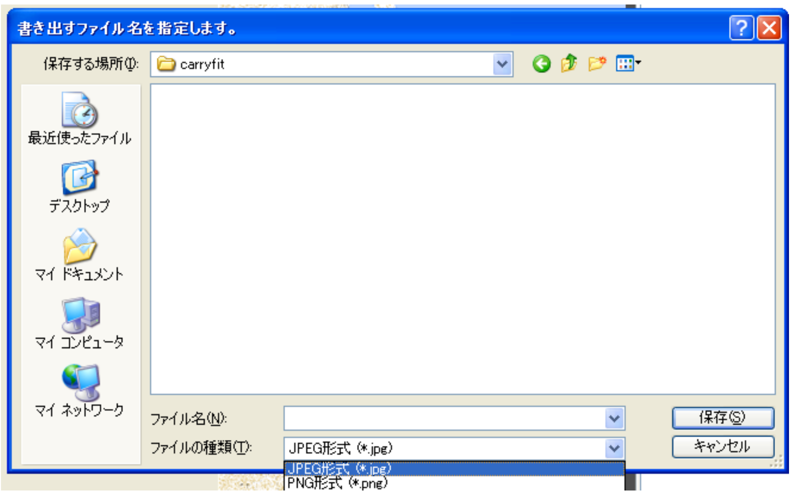
「概要」

表示している地図／写真に図形が描画された状態を、指定の画像ファイル形式で出力します。対応している画像ファイル形式は JPEG,PNG です。



「操作」

1. 「ファイル」「形式を選択して書き出し」をクリックします。
2. 縦横のピクセル数を指定します。
2. ファイル名と書き出し先のフォルダとファイルの種類を指定して、「保存」をクリックすれば、地図／写真が書き出されます。



13.3 Shape 形式で地図を出力

「概要」

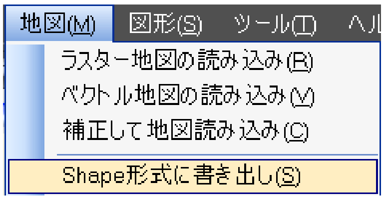
描画した図形の位置・属性を、ESRI Shape 形式で出力します。

GIS ソフトにデータを渡す場合に利用します。

*属性によっては、Shape 形式の制限から 256byte を超えないように切っています。

「操作」

1. 「地図」「Shape 形式に書き出し」をクリックします。
2. 書き出し先フォルダを指定します。
3. 「OK」をクリックすると、書き出し先フォルダに Shape ファイルが作成されます。

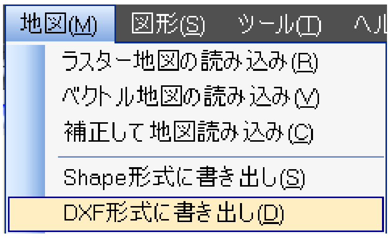


13.4 DXF 形式で地図を出力

「概要」

表示している図形の位置・スタイルを DXF 形式で出力します。

「操作」



1. 「地図」「DXF 形式に書き出し」をクリックします。
2. 保存先となるフォルダとファイル名を指定した後に「保存」をクリックします。

13.5 表示範囲をキャプチャしてクリップボードにコピー

「概要」

「ビューエリア」に表示中の画像をキャプチャし、クリップボードにコピーします。

「操作」

1. 拡大・縮小などを用いて、キャプチャしたい範囲を「ビューエリア」に表示します。
2. 「ツールバー」にある「クリップボードにコピー」

ボタンをクリックします。
3. 「ビューエリア」全面がクリップボードにコピーされます。

*ワード、エクセル等の表示させたい位置で貼り付けコマンドを使用して貼り付けしてください。

13.6 写真をドラッグ&ドロップで出力

「概要」

関連付け表示されている写真を、他ソフトへドラッグ＆ドロップします。

「操作」

1. 「操作ツール」「選択」をクリックして、該当の図形を選択します。
2. 「図形情報」にプレビュー／サムネイル表示されている写真でクリックして、他ソフトまでドラッグします。
3. 他ソフト上で表示させたい位置でドロップすると、図形情報に表示されている写真がその位置に貼り付きます。

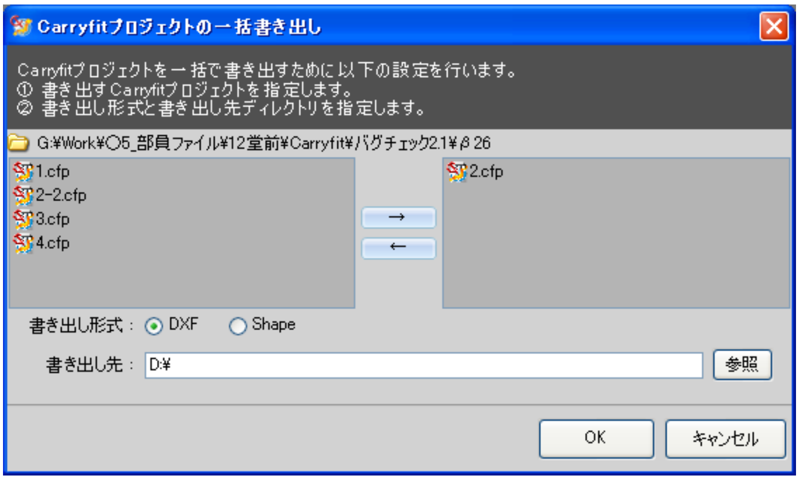
13.7 Carryfit プロジェクトを一括書き出し

「概要」

Carryfit プロジェクトが保存されているフォルダを指定して、複数のプロジェクトを
DXF 形式または、Shape 形式で出力します。

「操作」

1. プロジェクトが開かれていない状態で、「メニューバー」の「ファイル」をクリックします。
2. Carryfit プロジェクトが保存されているフォルダを指定します。
3. 出力するプロジェクトを選択して、「→」ボタンを押して、出力リストに追加します。
4.「参照」ボタンを押して、出力するフォルダをします。
5.「OK」ボタンを押すと、プロジェクトが書き出されます。



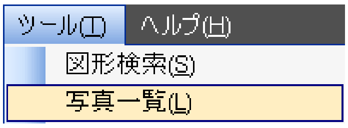
14.ツール

14.1 写真一覧

「概要」

写真一覧から図形に関連付けた写真の全てを表示します。写真をダブルクリックして当該写真を関連付けた図形を探すことが出来ます。

「操作」



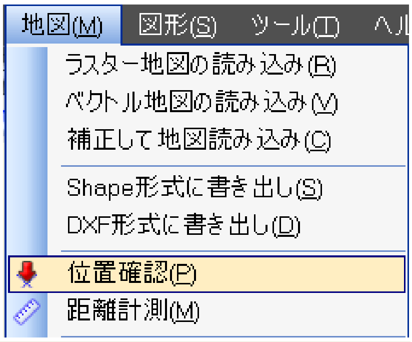
1. 「ツール」メニューの「写真一覧」を選択します。
2. 写真一覧が表示されます。
3. 目的の写真を選んで「位置表示」ボタンをクリックします。
4. 当該図形が選択状態で「ビューエリア」の中央に表示されます。

14.2 位置確認(地図モードのみ)

「概要」

座標の設定が適切かどうかをチェックするツールです。

図中の任意地点の座標(世界測地系)を調べます(『ウオッちず http://watchizu.gsi.go.jp/』などを利用すると簡単に調べられます)。

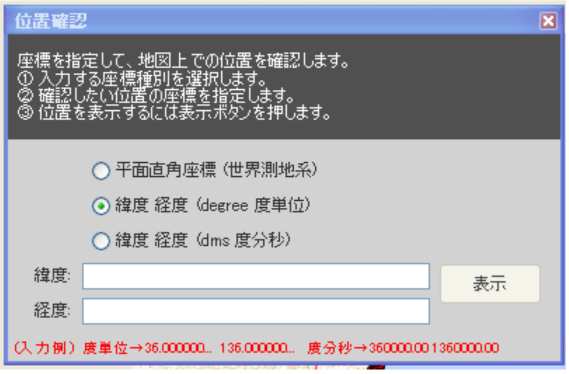


「操作」

1. 「地図」メニューの「位置確認」を選択します。
2. 位置確認ウィンドウが表示されます。
3. 平面直角座標系または緯度経度(degree または dms)を入力します。

例:

表示	度分秒	Degree
緯度	36°56’43”	36.945277777
経度	136°12’34”	136.209444444



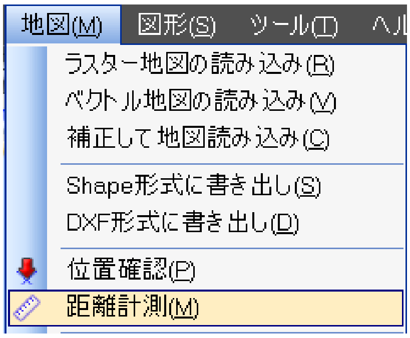
4. 「表示」ボタンをクリックします。
5. 入力した座標位置が地図中に↓矢印で表示されます。
6. 位置が正しいか確認します。

14.3 距離計測（地図モードのみ）

「概要」

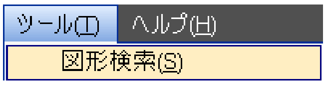
二点間の距離が計測できます。

「操作」



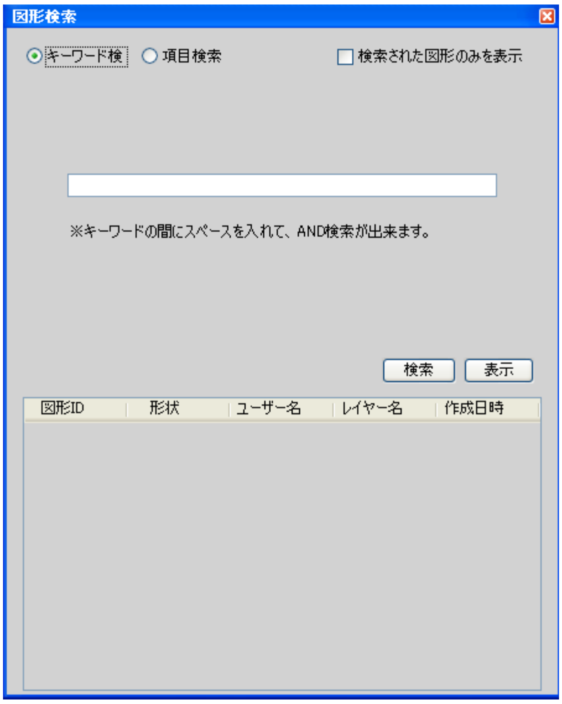
1. 「地図」メニューの「距離計測」を選択します。
2. 起点となる点をクリックし終点となる位置までドラッグします。

14.4 図形の検索



「概要」

キーワード、レイヤー、図形名、形状、属性、作成日時を利用して図形を検索します。



「操作」

1. 「ツール」メニューの「図形検索」を選択します。
2. 図形検索ウィンドウが表示されます。
3. 「キーワード検索」または「項目検索」を指定します。
4. 「キーワード検索」を指定した場合

4-1. 「キーワード」を入力します。

4-2. 「検索された図形のみを表示」する場合はチェックを入れます。

4-3. 「検索」ボタンをクリックします。

5. 「項目検索」を指定した場合

5-1. 検索対象（レイヤー、図形名、形状、属性、作成日時）を指定します。

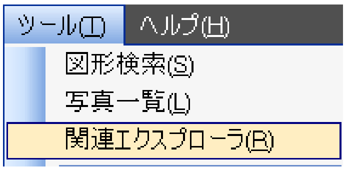
5-2. 「検索された図形のみを表示」する場合はチェックを入れます。

5-3. 「検索」ボタンをクリックします。

6. 検索結果の一覧が表示されます。
7. 検索結果一覧から目的の図形を選んで「表示」ボタンをクリックします。
8. 当該図形が選択状態で「ビューエリア」の中央に表示されます。

14.5 関連エクスプローラ

「概要」



関連付けた写真ファイルや任意ファイルの関係をツリー表示し，それらの書き出しファイル名を確認・変更して，指定したフォルダに書き出します。

「操作」

1. 「ツール」メニューの「関連エクスプローラ」を選択します。
2. 図形や写真，任意ファイルの関係がツリー表示されます。
3. 当該ファイルを選択します。
4. ファイル名が妥当か確認します。
5. 必要に応じて図形名やファイル名を修正します。
6. 「書き出し」ボタンをクリックします。
7. 書き出しフォルダを選択します。
8. 「OK」ボタンをクリックします。
9. 「設定」「オプション」「出力」の「関連エクスプローラ」の設定に従い地図／写真が書き出されます。

*出力画像の設定方法（描画した図形を載せるかどうか）については、「設定」の「出力」の項を参照してください。

*「関連エクスプローラ」で出来る事に関する詳しい情報は、「よくある質問」を参照してください。

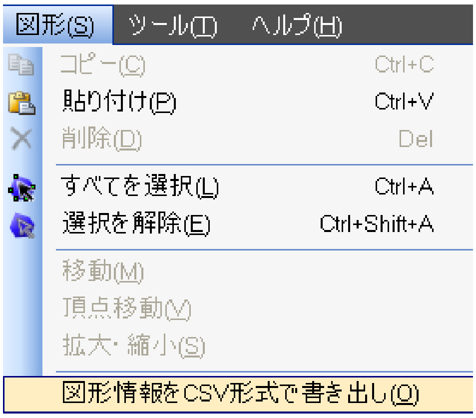
14.6 図形情報を CSV 形式で書き出し

「概要」

表示している図形の情報を CSV 形式で出力します。

*図形 ID、名前、作成日時、形状、レイヤー名、属性が出力されます。

「操作」



1. 「図形」メニューの「図形情報をCSV形式で書き出し」を選択します。
2. 保存先となるフォルダとファイル名を指定した後に「保存」をクリックします。

よくある質問

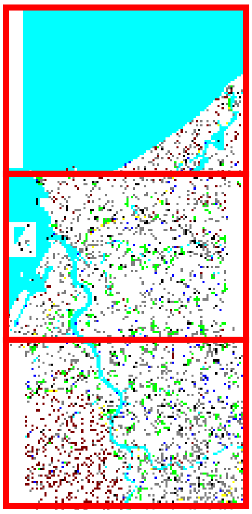
地図関連

Carryfit2.0 で取り扱える地図画像のサイズ（ピクセル数）

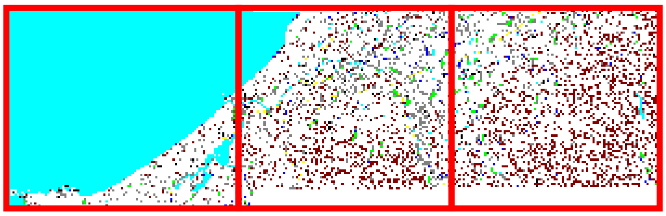
Carryfit で取り扱う事の出来る画像サイズは、画像の縦横比の影響を受けるために一概に『○○ピクセル以下』とは言い切る事は出来ません。

（財）日本地図センター（http://www.jmc.or.jp/data/index.html）で提供されている『数値地図 25000（地図画像）』を使い弊社で確認した範囲で申し挙げると、横に3葉を結合した画像（57,410,496 ピクセル 13,728x4,182）、縦に3葉を結合した画像（64,469,607 ピクセル 5,563x11,589）は使用する事が出来ましたが、横 4 枚ではメモリ不足になりました。田の字型に4葉を結合した画像（76,108,592 ピクセル 9,656x7,882）は使用することができましたが、ぎりぎりの状態と思われます。）

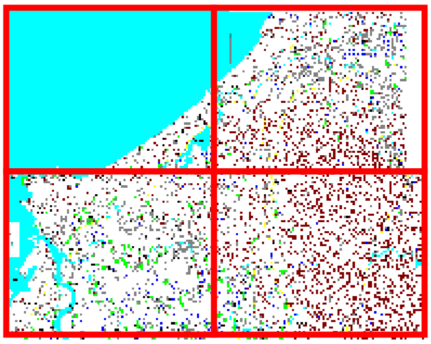
ラスター地図を別レイヤーとして読み込んだ場合はメモリー不足になりにくくなります。25000 の地形図の例では 15 枚程度でもメモリ不足になりませんでした。ただし、図形などを作図していない状況での確認です。作業の途中でメモリ不足になりましたので限界に近い状況だと考えられます。



縦３葉



横３葉

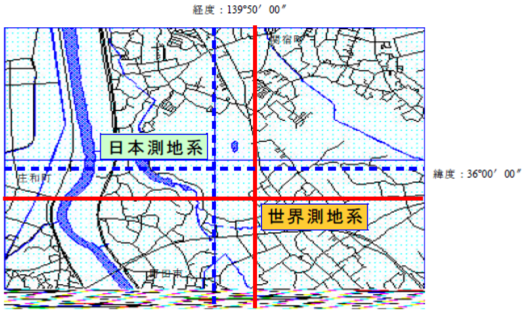


田の字４葉

日本測地系を世界測地系に変換する方法

<測地系の変換理由>

我が国の測量が開始された時に採用された地球楕円体はベッセル楕円体であり、世界測地系で採用されているGRS80の楕円体と異なっている。また、日本経緯度原点の原点数値は、明治時代に天文測量がもとになっており、世界測地系やGPS等の観測によって設定された世界共通の測地基準系に基づいた値からは大きくずれており、日本経緯度原点に基づく旧成果(以後、日本測地系という)で現された地図を世界測地系に基づく値に変換しなければ、GPS等を使用して位置を特定することが出来ません。



出展:『測地成果2000導入に伴う公共測量成果座標変換マニュアル』より

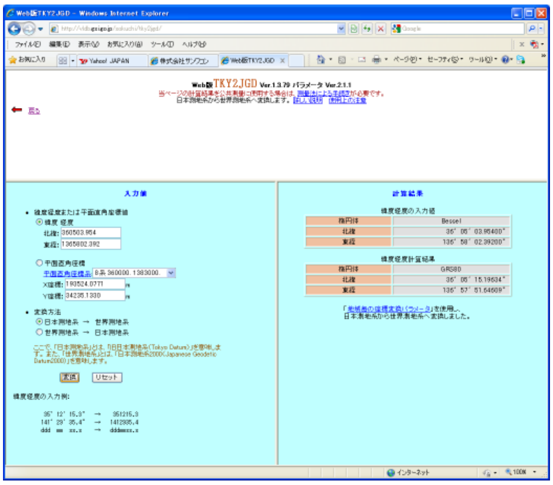
<日本測地系から世界測地系へ変換>

日本測地系の座標(緯度/経度 or 平面直角座標X/Y)を世界測地系に基づく座標(緯度/経度 or 平面直角座標X/Y)に変換するためのツールが、国土地理院のホームページ内で『世界測地系座標変換(TKY2JGD)』(http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/surveycalc/main.html)として公開されており、これを使った変換方法を説明します。

1. 上記アドレスにアクセスし『測量計算』から『世界測地系座標変換(TKY2JGD)』のリンクをクリックする。

2. 変換方法を指定する。
   「日本測地系→世界測地系」or「世界測地系→日本測地系」

3. 日本測地系の緯度/経度を変換する場合には緯度経度を選択し、北緯に緯度の値を東経に経度の値を入力します。
   また、平面直角座標を変換する場合には、平面直角座標を選択し、平面直角座標系(Ⅰ～XIX系)とX座標・Y座標の値を入力します。
   *測量の座標系は数学座標系と異なり縦軸がX座標・横軸がY座標となるから注意が必要です。



4. 「変換」をクリックすれば、計算結果が右側に表示されます。

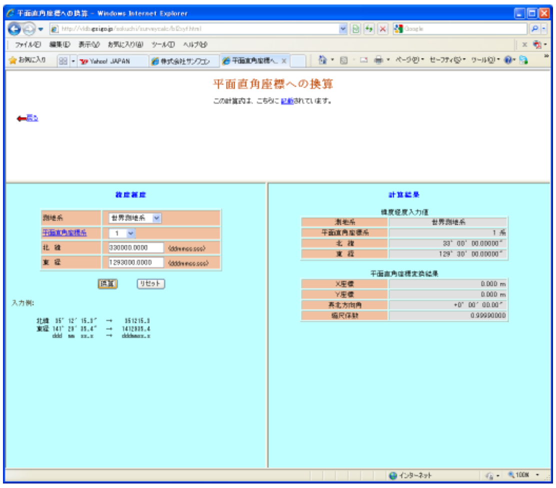
日本測地系・世界測地系及び平面直角座標系についての詳しい内容は、国土地理院のホームページ内の『日本の測地座標系』(http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/datum/tokyodatum.html)を参照してください。

『緯度/経度』を平面直角座標系に変換する方法

『緯度/経度』を平面直角座標系に変換するツールが、国土地理院のホームページ内で『平面直角座標への変換』(http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/surveycalc/main.html)として公開されており、これを使った変換方法を説明します。

1. 上記アドレスにアクセスし『測量計算』から『平面直角座標への変換』のリンクをクリックします。

2. 平面直角座標系に変換したい『緯度/経度』の測地系を選択します。
   *世界測地系の『緯度/経度』を変換する時は『世界測地系』を指定する。



3. 平面直角座標系の座標系(Ⅰ～ⅩⅨ系)を指定します。

4. 北緯に緯度の値を東経に経度の値を入力します。

5. 「換算」をクリックすれば、計算結果が右側に表示されます。

*日本測地系の『緯度/経度』から直接、世界測地系の『平面直角座標系』の座標値は求められません。

日本測地系・世界測地系及び平面直角座標系についての詳しい内容は、国土地理院のホームページ内の『日本の測地座標系』(http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/datum/tokyodatum.html)を参照してください。

地図の座標が分からないが Carryfit 2.0 が利用したい

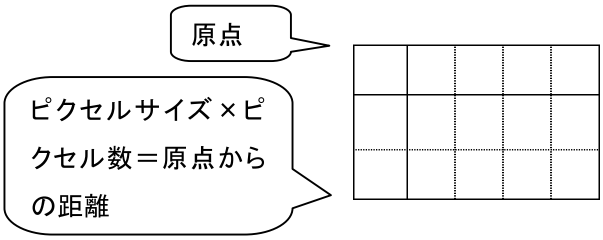
A. 区間距離が測れる簡易な設定がしたい（GPS の利用は不可）

<日本測地系の座標が分かっている場合>

1. 日本測地系の座標をそのまま入力すれば、相対的な距離は同じであるので、区間距離は測定できる状態で Carryfit Map が利用できます。

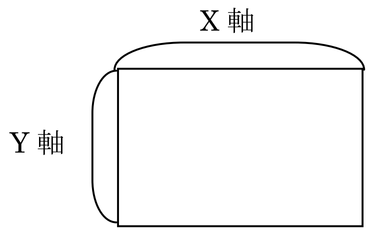
<ピクセルサイズとピクセル数が分かっている場合>

1. 座標系は地図に合ったものを、座標は平面直角座標を選択します。
2. 左上の座標を（0,0）、右下の座標を（X 方向のピクセルサイズ×X 方向のピクセル数, Y 方向のピクセルサイズ×Y 方向のピクセル数）を m 単位で入力します。



<地図のスケールが分かっている場合>

1. 座標系は地図に合ったものを、座標は平面直角座標を選択します。
2. 左上の座標を（0,0）、右下の座標を（X 方向の原点からの距離,Y 方向の原点からの距離）を m 単位で入力します。



例）25,000 分の 1 のスケールで X 軸が 30cm、Y 軸が 30cm の場合

X 方向の原点からの距離＝0.3(m)×25000＝7500(m)

Y 方向の原点からの距離＝0.2(m)×25000＝5000(m)

B. 簡易な設定で地図モードを使いたい（GPS の利用・距離計測は不可）。

作成手順

1. 地図モードにラスター地図を読み込む時、左上の座標を（0,0）、右下の座標を（1,1）とします。このとき、座標系はどれでもよいので選択する必要があります。
2. 作成をクリックします。

図形が削除出来ない

削除したい図形に、写真やファイルが関連付けられていると削除することが出来ません。
その場合は、先に関連付けられているファイルを全て削除してください。
関連付けられているファイルの削除は以下の手順で行います。

削除手順

1. 削除したい写真、ファイルを選択します。
2. 「情報エリア」の「図形情報」タブの関連にある「削除」アイコンをクリックします。
3. 確認メッセージが表示されるので、「OK」ボタンを押します。

関連エクスプローラの使い方

関連エクスプローラを利用してデータを整理するケースとしては以下のようなケースが想定されます。

<想定されるケース>

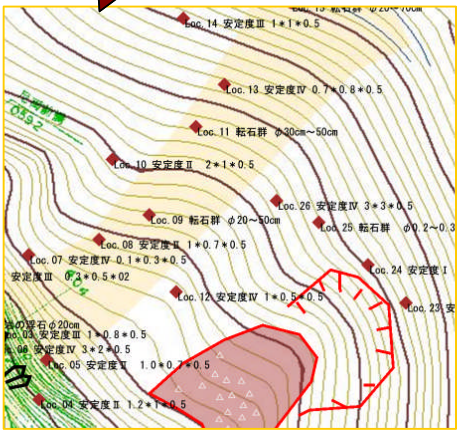
1. 写真データファイルを提出する場合。
2. 市販のアルバム管理ソフト等を使って写真を印刷する場合。
3. 関連付けられた写真を順次確認する場合。
4. フィールド作業において、ユーザー名を付けずに写真を関連付けた図形に連番を付加したい場合。

<写真データファイルを提出する>

【利用イメージ】

現場で図形に写真を関連付け，地点番号と情報をユーザー名として登録

図形に付けたユーザー名がファイル名となって，指定したフォルダに写真データが吐き出されます。

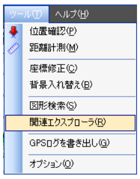


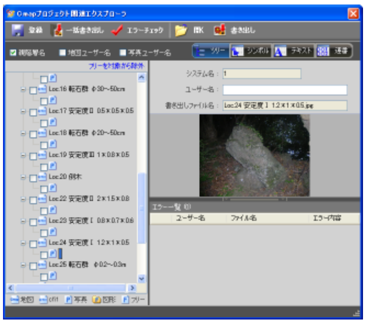
関連エクスプローラー

分かりやすいファイル名で写真データを提出

【手順】

1. 「ツール」「関連エクスプローラ」を選択。
2. 『親階層名』のみチェックを付ける。
3. 一括書き出しをクリックし、書き出し先となるフォルダを指定する。
4. 「OK」をクリックすると写真が書き出され、その時の結果がログとして出力される。





<市販のアルバム管理ソフト等を使って写真台帳をつくる>

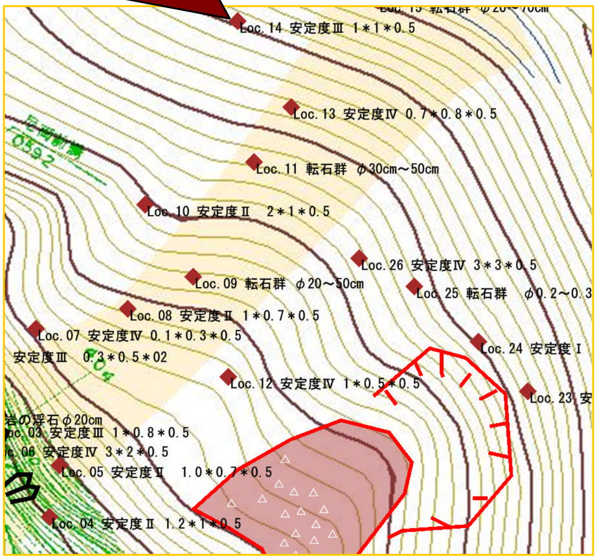
【手順】

1. 『写真データファイルを提出する』の要領で、写真に整理名称(整理番号)等を付してファイル出力する。

2. 出力されたファイルをアルバムソフト等に取込むと写真台帳が出来上がります。

現場で図形に写真を関連付け，地点番号と情報をユーザー名として登録

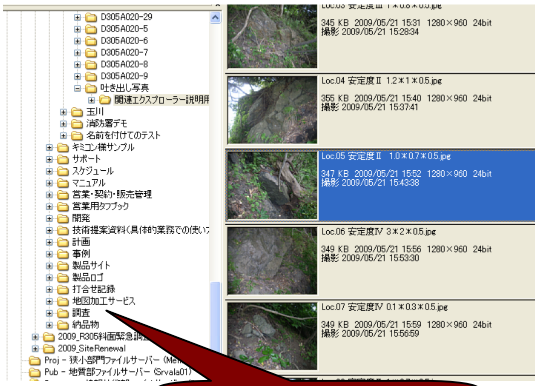
図形に付けたユーザー名がファイル名となって，指定したフォルダに写真データが吐き出されます。



関連エクスプローラー

印刷例

VIX(フリーソフト)を利用する場合



吐き出したフォルダを指定

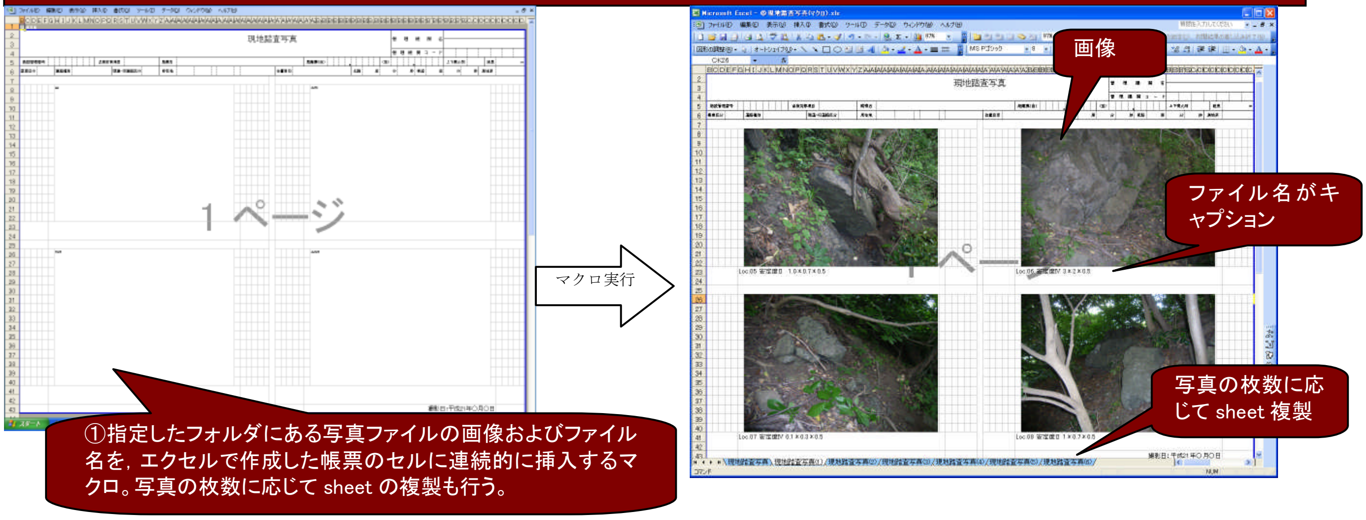
アルバム印刷

ファイル名がキャプションになって，簡単に写真台紙が完成

Excelにマクロを組み込んで下図のような写真台帳を作ることもできます。

Excelマクロサンプル(⑥現地踏査写真(マクロ).xls)

エクセルのマクロを利用する場合（一例）



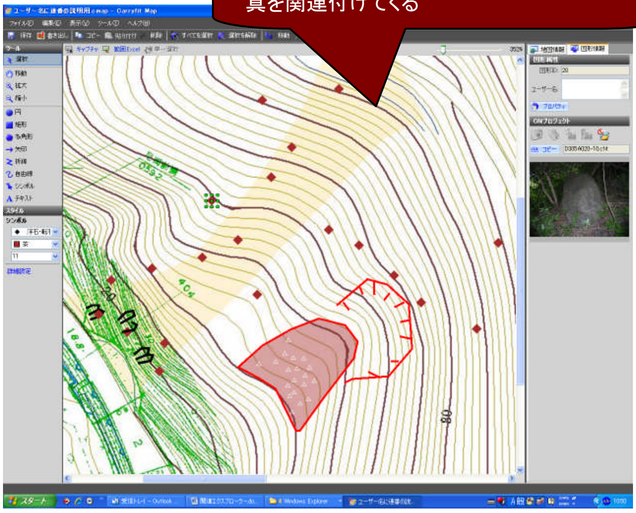
<関連付けられた写真を順次確認する>

【利用イメージ】

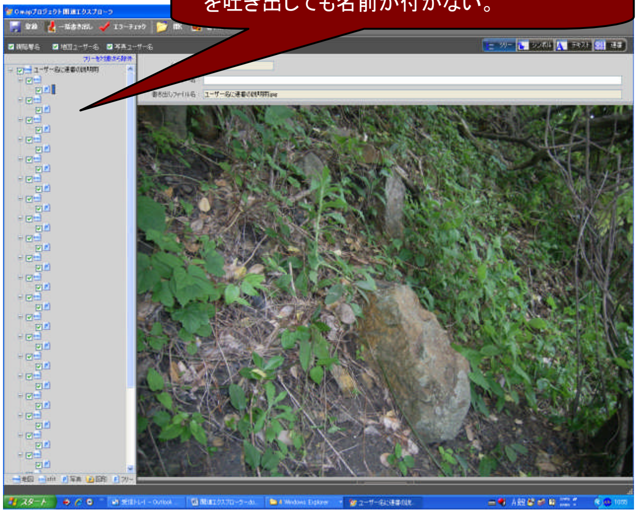
<ユーザー名を付けずに写真を関連付けた図形に連番を付加>

【利用イメージ】

図形にユーザー名を付けずに，どんどん写真を関連付けてくる

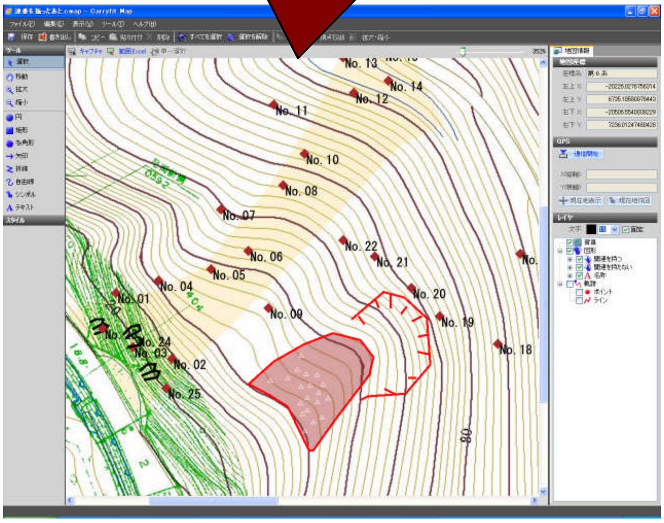


ユーザー名が入力されていないため，写真を吐き出しても名前が付かない。

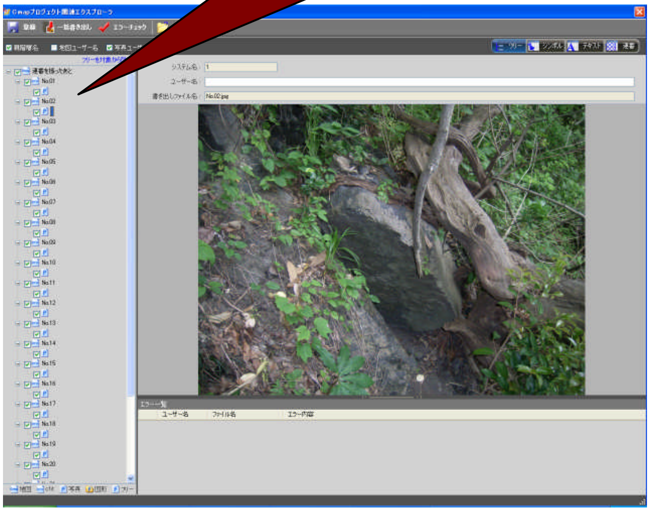


関連エクスプローラー
連番作成機能を使う

調査地点に番号が振られて，写真撮影位置平面図などとして利用可能になる



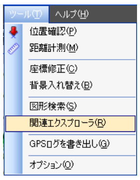
連番が割り振られ，番号に応じた写真を吐き出すことができる



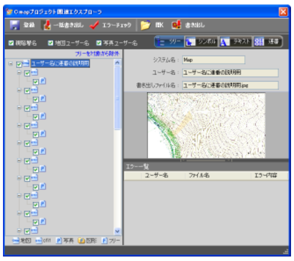
【手順】

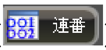
1.「ツール」「関連エクスプローラ」を選択。

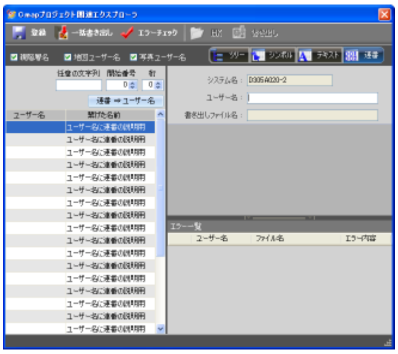
2. 最上階の階層（ユーザー名に連番の説明用）を選択する。



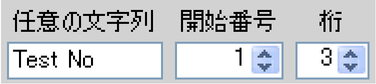
3. この時、図形が作成された順番でツリー表示がされています。



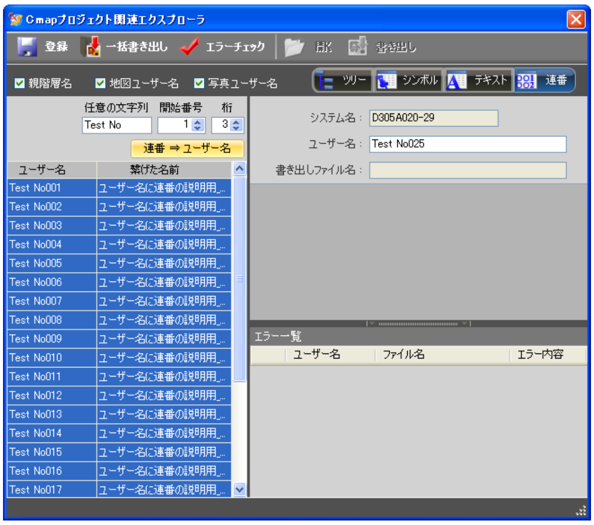
4. 連番()をクリックすると連番を付与するためのリスト一覧が表示されます。



5. ユーザー名となる任意文字列(ここでは『Test No』)と連番の開始番号及び表示桁数を指定します。



6. 連番を付与するオブジェクトを全て選択した後に、『連番⇒ユーザー名』をクリックすると指定に従って連番が付与されます。



オートシェイプに書き出された画像が一部しか表示されない

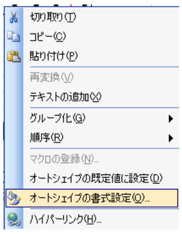
図 1

「図 1」のオリジナル画像ように表示されるべき処、「図 2」のように表示された場合、以下の操作で「図 3」のような表示に変更できます。

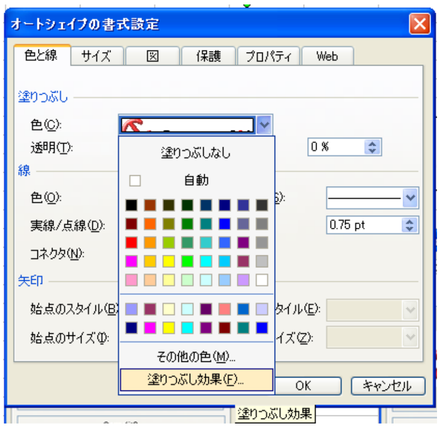
図 2

図 3

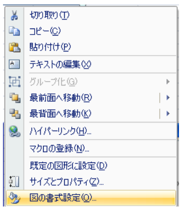
<Exlcel2003>



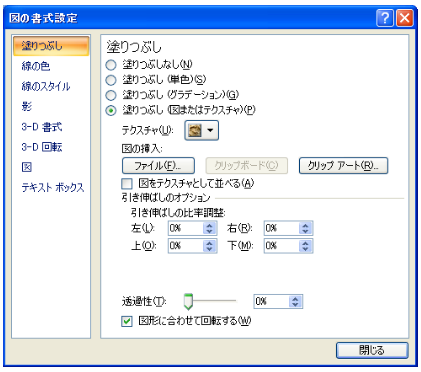
1. マウスの右クリックで「オートシェイプの書式設定」を選択する。
2. 『色と線』タブの「塗りつぶし」の「色」からプルダウンメニューで「塗りつぶし効果」を選択する。
3. 『図』タブの「図の縦横比を固定する」のチェックを外し、「OK」をクリックする。



<Excel2007>



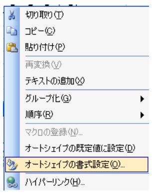
1. マウスの右クリックで「図の書式設定」を選択する。
2. 「塗りつぶし」の「引き伸ばしの比率調整」で「左」「右」「上」「下」の各値を0%にして「図の書式設定」を閉じます。



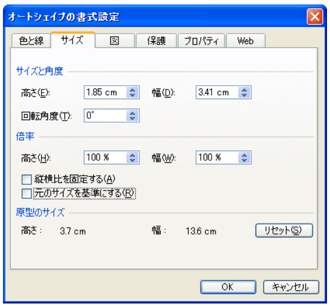
オートシェイプに書き出された画像が伸縮する(縦横比が崩れる)

　Excel や Word のオートシェイプに写真や表示画像を貼り付けた場合に貼り付けられた画像が歪んでいることがあります。原因としては、貼り付け元となる画像の縦横比と貼り付け先となるオートシェイプの縦横比が一致していない事によります。以下に縦横比をオリジナルに戻す方法を説明します。

<Excel2003>



1. マウスの右クリックで「オートシェイプの書式設定」を選択する。
2. 「サイズ」タブの「倍率」で「縦横比を固定する」と「元のサイズを基準にする」のチェックを外す。
3. 「原型のサイズ」の『リセット』をクリックしつづいて『OK』をクリックするとオートシェイプのサイズがオリジナルサイズに復元されます。



4. 再度、マウスの右クリックで「オートシェイプの書式設定」を選択し、「サイズ」タブの「倍率」で「縦横比を固定する」と「元のサイズを基準にする」のチェックを入れて『OK』をクリックする。
5. 必要とするサイズになるようサイズ調整を行います。

<Excel2007>

Exlcel2007 は Exlcel2003 から図の取扱いに関し仕様が変更されており、貼り付け元のサイズ(オリジナルサイズ)に復元することができません。
申し訳ありませんが、CarryfitStandard から目的の表示地図を「ドラッグ&ドロップ」機能で Exlcel2007 に取込みなおしてください。

追記:「Excel 97 – 2003 ブック形式」で保存し、Exlcel2003 で編集し直すと、オリジナルサイズに復元する事はできます。

自動貼り付けを利用するための Excel 帳票の作り方

1. 帳票の中で写真を貼り付けたい位置に図形(オートシェイプ)を挿入します。
2. 挿入した図形の名前を命名規則にのっとった名前に変更します。

   *「正方形／長方形 12」→「cfit 表示画像」の具合に名称変更します。

   ・表示中の画像（図形含む）を Excel に貼り付ける場合：図形の名称を「cfit 表示画像」とする。

   ・シンボルに関連付けた写真を Excel に貼り付ける場合：図形の名称を「cfit シンボル〇〇〇」とする。

   ・テキストに関連付けた写真を Excel に貼り付ける場合：図形の名称を「cfit テキスト□□□」とする。

   ・「cfit シンボル〇〇〇,1」や「cfit シンボル〇〇〇,2」のように命名すると、「シンボル〇〇〇」に関連付けられた複数枚の写真にも対応できます。「cfit テキスト」も同様に複数枚の写真に対応できます。

   *図形の名称変更時、左図の状態は名称確定していません。右図の状態になって初めて名称変更が確定した状態です。

「写真、ファイルにユーザー名をつける」機能の使い方

　関連エクスプローラでファイルの一括書き出しを行うとき、「同一ファイル名が存在します」というエラーが出ることがあります。関連エクスプローラウィンドウでまとめてユーザー名をつけることもできますが、ファイルを関連付けた時にその都度ユーザー名をつけることができます。特に、1 つの図形に複数の写真を関連付けた時に有効です。

カメラ関連

写真がカメラから転送されてこない１

カメラとパソコン間をBluetoothで通信する事を前提に記載します。

<症状及び原因>

カメラ側の設定変更をしていないのに、昨日は出来た写真転送が今日は出来ないという事があります。原因としてはパソコンへのログインしたユーザが異なっている事が最も大きな要因として考えられます。WindowsXP(Windows2000,WindowsVISTA含む)はWindows9X系とは異なり、ログインしたユーザー毎に動作環境を持っています（ログインアカウントに依存）。Carryfitの動作環境を設定した内容やBluetoothの設定もログインアカウント毎に保存されることから、ログインアカウントが異なれば、『昨日出来たのに今日は出来ない』という現象が生じます。

<影響を受ける部分>

Carryfit(ソフトウェア)

- 図形選択枠の表示色の設定。
- 現在位置・軌跡及び軌跡線の表示色の設定。
- 線・塗潰し・テキスト・シンボルで選択できる色数・色種の設定。
- シンボルで選択できるシンボル数・シンボル種の設定。
- テンプレートとして利用できる調書数・種類の設定。
- GPSからリアルタイムで位置情報を受け取るための設定。
- カメラから転送された写真を取込むための設定。
- ドラッグ＆ドロップ・Officeへの書き出し・関連エクスプローラ等の出力設定。

カメラ(ハードウェア)

- カメラ側のBluetooth設定

<対応策>

対応策1：昨日と同じアカウントでログインし直します。

対応策2：「ツール」「オプション」「取込み」で取込み元となるフォルダを設定をします。併せてカメラ側(RICHO製Caplio500SEの場合)で送信先となるパソコンを再度指定します。(詳しい手順は『写真がカメラから転送されてこない2』を参照してください。

*「設定ファイルのインポート/エクスポート」機能を使うと動作環境の統一が図れます。

写真がカメラから転送されてこない２

<症状>

RICHO製Caplio500SEの場合を例にすると、カメラ側では写真の転送先となるパソコンが指定されているにも関わらず、写真が転送されてこない。併せて、Bluetoothの接続がすぐに解除されてしまう(カメラのモニター画面にBluetooth画面が表示されない)。

<対応策>

カメラ側(RICHO製Caplio500SEの場合)で設定を行います。

1. 『拡張設定』メニューの『BTシリアル』で「送信先リスト」から該当する接続機器を選択し🗑（削除）を押して削除する。

2. ADJ 検索ボタンを押して、利用できる機器を検索する。

3. 送信先となるPCを選んで▶ボタンを押す。

4. パスキーの入力を求められたらパスキー(例:『0000』)を入力する。

5. パソコンとの接続が開始された後に、『接続出来ませんでした』の表示の後に撮影モードに戻ります。

6. 以上で再設定は完了となります。

Bluetooth 関連

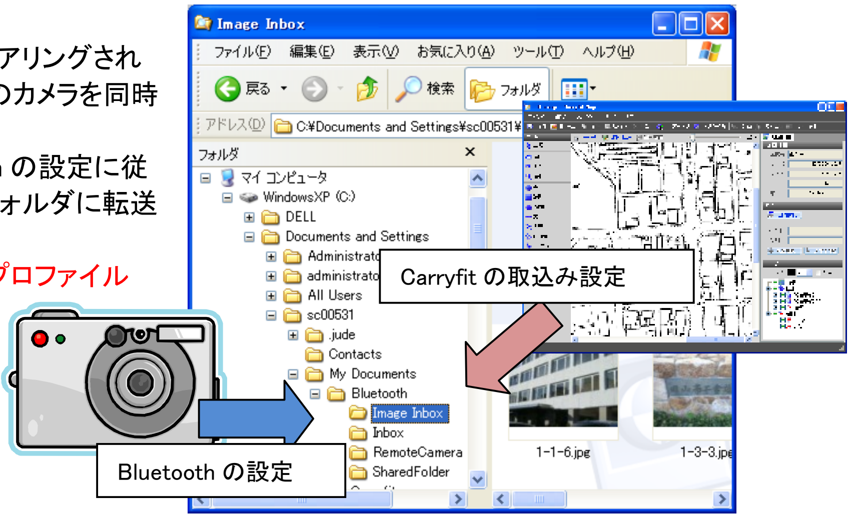
Bluetooth による写真転送の仕組み

Bluetooth を用いた写真転送は、ペアリングされた機器間のみで行われるため、複数のカメラを同時に使う事は出来ません。

カメラからの写真転送は、Bluetooth の設定に従い、ユーティリティで指定された専用フォルダに転送されます。

*C:Documents and Settings¥User プロファイル¥My Documents¥Bluetooth 下に保存される設定が多い。

Carryfit の「ツール」「オプション」「取込み」「取り込み元」を Bluetooth の設定で指定された専用フォルダと一致させる必要がある。

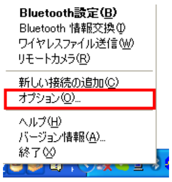


受信完了のメッセージが表示される

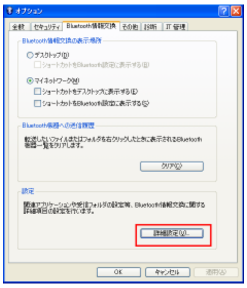
カメラからパソコンに Bluetooth を使って写真を転送すると『受信完了メッセージ』が表示される。

ユーティリティ(Bluetooth Stack for Windows by Toshiba)の Version 6.**.** 系以降に追加された機能で、以下の方法で非表示にする事が出来ます。

1. タスクバーの右側にある Bluetooth アイコンを右クリックする
2. サブメニューから「オプション」を選択

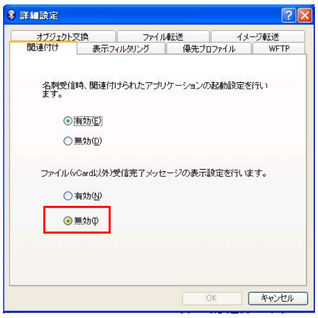


3. 「Bluetooth 情報交換」タブの詳細設定を選択



4. 「関連付け」タブの「ファイル(vCard 以外)受信完了メッセー

ジの表示設定を行います。」を『無効』にする。



Bluetooth 対応のヘッドセットを使い方

Bluetooth ヘッドセットとコンピュータ（以降 PC）の接続設定の例を紹介します。ここで紹介する例では、Bluetooth のデバイスドライバーとして Toshiba のデバイスドライバーを使用しています。他社のドライバーをお使いの方は、設定画面をご自身の環境に置き換えてご覧ください。

設定方法

ヘッドセットと PC を接続するには、「ペアリング」という操作が必要となります。「ペアリング」を行う際は、ヘッドセットと PC を近づけて行ってください。この「ペアリング」時に「プロファイル」の設定を行います。ヘッドセットは、「プロファイル」として「ヘッドセットプロファイル（HSP）」を使いますが、「プロファイル」を間違って設定してしまうとヘッドセットが正しく使えないのでご注意ください。

設定手順は以下のようになります。

設定手順

1. Bluetooth ヘッドセットを「ペアリングモード」にする。（このヘッドセットを「ペアリングモード」にする操作はそれぞれの機種によって異なりますので、お使いのヘッドセットの取扱説明書をご覧ください。）
2. PC の Bluetooth レシーバの設定画面を起動します。
3. Bluetooth の設定画面で「新しい接続」ボタンを押し、新しい接続の追加を行います。

4. 「新しい接続の追加ウィザード」が起動します。

「カスタムモード」にチェックを入れて、「次へ」をクリックします。(「エクスプレスモード」で設定を行うと、プロファイルが「A2DP」で設定されてしまう場合があります。接続設定は、必ず「カスタムモード」で行ってください。)

5. 周囲にあるBluetooth機器が検索されますので、Bluetoothヘッドセット選択して「次へ」をクリックします。

6. サービスの選択画面が表示されます。「ヘッドセット」のサービスクラスを選択して「次へ」をクリックします。このとき、必ず「ヘッドセット」のサービスクラスを選択してください。

7. パスキー入力画面が表示されます。パスキーを入力します。(入力するパスキーは、お使いのヘッドセットの取扱説明書をご覧ください。)

8. 接続名称の設定画面が表示されます。「次へ」をクリックします。
9. 新しい接続の追加ウィザードの完了画面が表示されます。「完了」をクリックします。Bluetooth 設定画面に、追加したヘッドセットのアイコンが表示されます。このとき、イヤーフック型のヘッドセットのアイコン が表示されれば、設定は正しく行えています。ヘッドフォンのアイコン の場合は、プロファイルが異なりますので、よくある質問の「Bluetoothの設定プロファイルを変更するには?」を参照してヘッドセットのプロファイルに再設定してください。

Bluetooth ヘッドセットから音声の録音が出来ない

Bluetooth ヘッドセットの接続設定を行った上で、PC に音声を録音することが出来ない場合の対処方法を紹介します。

*ここでは、Bluetooth のデバイスドライバーとして Toshiba のデバイスドライバーを使用しています。他社のドライバーをお使いの方は、設定画面をご自身の環境に置き換えてご覧ください。

<対処方法>

1. **ヘッドセットの電源が入っているか確認します。**

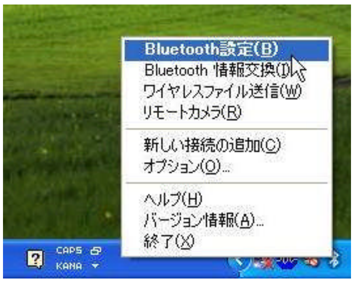
2. **ヘッドセットと PC の距離が離れ過ぎていないか確認します。**

   *Bluetooth には通信可能距離があり、それ以上の距離での通信は保障されません。お使いのヘッドセットの通信可能距離については、お手持ちの取扱説明書をご覧ください。

3. **ヘッドセットと PC との Bluetooth 接続が確立されているか確認します。**

   <確認手順>

   1. タスクバーの右側にある Bluetooth のアイコンを右クリックします。

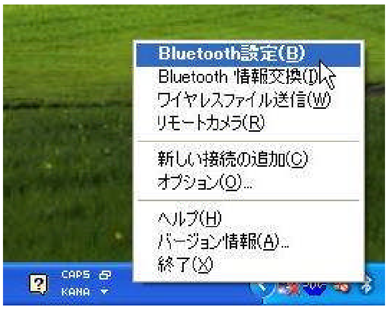


   2. Bluetooth 設定をクリックして、Bluetooth の設定画面を起動します。
   3. ヘッドセットのアイコンが、接続状態のアイコン表示になっているか チェックします。

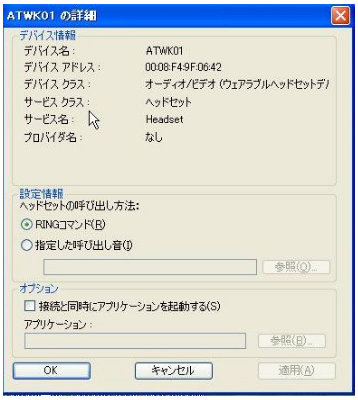
4. Bluetooth ヘッドセットのプロファイルがヘッドセットプロファイル(HSP)で設定 されているか確認します。

＜確認手順＞

1. タスクバーの右側にあるBluetoothのアイコンを右クリックします。
2. Bluetooth 設定をクリックして、Bluetooth の設定画面を起動します。



3. ヘッドセットのアイコンを選択して、「詳細」ボタンを押します。
4. 詳細画面が表示されます。デバイス情報から、サービスクラスがヘッドセットであることを確認します。

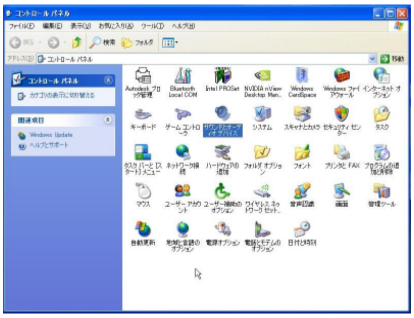


5. サービスクラスがヘッドセットになっていない場合、よくある質問の「Bluetooth の設定プロファイルを変更するには？」を参照して変更してください。

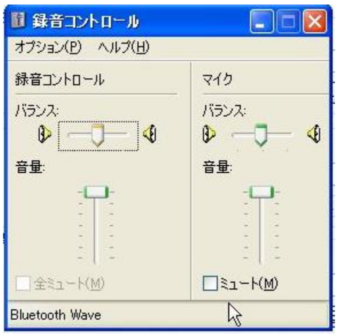
5. PC の録音の音量設定を確認します。

＜確認手順＞

1. 「コントロールパネル」から「サウンドとオーディオ デバイス」をダブルクリックします。



2. 「サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ」の「オーディオ」タブをクリックします。
3. 「録音」の項目の「規定のデバイス」が Bluetooth ヘッドセットのデバイスであるか確認します。
4. 「音量」ボタン押して、「録音コントロール」の「マイク」の項目を確認します。



5. 「ミュート」のチェックが外れている事を確認し、音量が小さい場合はスライダーを操作して、音量を大きくします。

Bluetooth の設定プロファイルを変更する

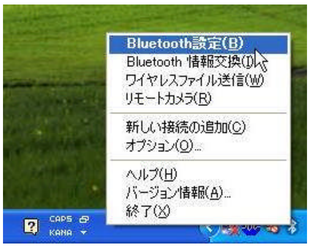
Bluetooth ヘッドセットのプロファイルを変更する方法の例を紹介します。(ここでは、Bluetooth のデバイスドライバーとして Toshiba のデバイスドライバーを使用しています。他社のドライバーをお使いの方は、設定画面をご自身の環境に置き換えてご覧ください。)

<変更方法>

登録されている Bluetooth ヘッドセットの、プロファイルだけを変更することは出来ません。そのため、プロファイルを変更する場合、一度登録から削除して新たに登録しなおす必要があります。

<変更手順>

1. タスクマネージャーの右側にある Bluetooth のアイコンを右クリックします。
2. Bluetooth 設定の項目をクリックして、「Bluetooth 設定」画面を起動します。

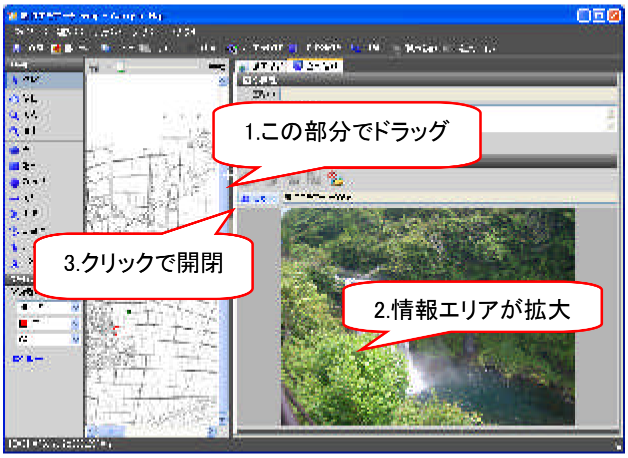
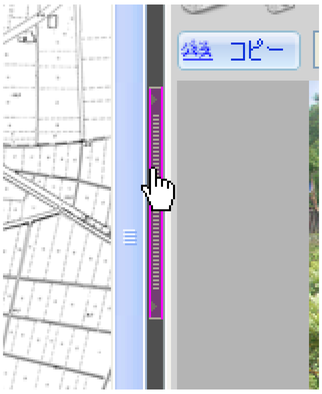


3. プロファイルを変更したい Bluetooth ヘッドセットを選択します。
4. 画面右下にある削除ボタンをクリックして、登録から削除します。

5. 「よくある質問」の「Bluetooth 対応ヘッドセットを使うには？」を参照し、再度接続設定を行って下さい。

プレゼンテーション関連

説明に合わせて、写真を拡大表示したい

<操作手順>

1. 情報エリアとビューエリアの境界域で+を左にドラッグし情報エリアを適当なサイズまで広げます。
2. プレゼンターの説明に合わせて境界域中央部をクリックすると情報エリアが開閉します。